

G空間EXPO2022 開催報告書

令和5年3月
G空間EXPO運営協議会

目次

1. 開催概要	1
2. 基調講演・トークセッション	7
3. 地理空間情報フォーラム	11
4. Geoアクティビティコンテスト	29
5. 講演・シンポジウム	47
6. (同時開催) イチBizアワード	59
7. 広報	63
[参考] アンケート結果	75
" 開催実績	89

1. 開催概要

G空間EXPO運営協議会

開催概要

■ 開催概要

1. 名称 G空間EXPO2022 Geospatial EXPO2022 Japan
2. 開催方式 実地開催及びオンライン開催
3. 期間 【実地開催】 2022年(令和4年)12月6日(火)・7日(水) 10:00～17:00
【オンライン開催】 12月1日(水)10:00 ～ 25日(日)17:00
4. 会場 東京都立産業貿易センター浜松町館（東京都港区海岸1-7-1）
5. 対象 児童・生徒から社会人まで幅広い層 / 入場料 [実地] : 無料
6. 主催 G空間EXPO運営協議会
公益社団法人日本測量協会 一般社団法人全国測量設計業協会連合会
一般社団法人日本測量機器工業会 公益財団法人日本測量調査技術協会
一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構
一般財団法人日本情報経済社会推進協会
一般社団法人地理情報システム学会
内閣官房 内閣府宇宙開発戦略推進事務局
国土交通省政策統括官 国土交通省国土地理院
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
7. 来場数・アクセス数
【実地開催】 来場数 1,424名
【オンライン開催】 アクセス数 45,493件（1,819件/日）

統一テーマ・ロゴ・キービジュアル

■統一テーマ

「地理空間情報科学で未来をつくる」

G空間EXPO開催の根幹的な意義を示す標語。2013(平成25)年度より掲揚。

■年次テーマ

「G空間で創るデジタル社会」

統一テーマを踏まえつつ社会の流れや移り変わりに沿う時宜的な標語。一年度限り。

■タイトルロゴ



■キービジュアル



【実地開催】

開催構成（イベント概要、フロアマップ）

■ G空間EXPO基調講演・トークセッション

産・学・官それぞれから、G空間情報にかかる政府の取組、最新の動向等をテーマに基調講演、トークセッションをメインステージにて実施。合わせて、基調講演、トークセッションの様子をライブ配信するとともに、オンライン開催期間中映像を配信。

主催：G空間EXPO運営協議会

■ 地理空間情報フォーラム

企業、団体、機関等の展示・体験イベント等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介。高度で専門的な展示を通じ、G空間社会をもっと知りたい方々、情報収集を目的としたビジネス層のニーズに対応。

主催：測量関係4団体（公益社団法人日本測量協会、一般社団法人全国測量設計業協会連合会、一般社団法人日本測量機器工業会、公益財団法人日本測量調査技術協会）

■ Geoアクティビティコンテスト

公募で選ばれた地方公共団体・教育関係者・学生・NPO・民間企業等が、先進的な取組、独創的なアイデア、新たなサービス、ユニークな製品、画期的な技術等を展示。参加者や来場者が出会い、新たなアイデアが生まれる場を提供。

主催：国土交通省国土地理院

■ 講演・シンポジウム（オンラインのみ）

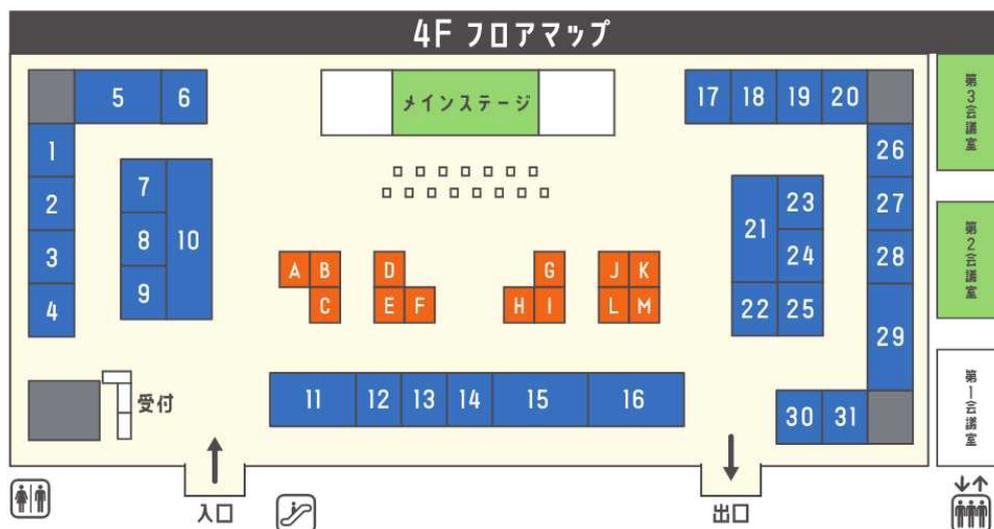
G空間社会を支える「みちびき」をはじめとした測位技術の最新情報、関連する研究の成果、製品化の情報、業界や新技術の動向について講演・シンポジウム形式で発信。

主催：一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構

■ (同時開催)イチBizアワード

既存分野にとらわれない斬新なアイデア・スキルを持つ人材の発掘とアイデアの事業化を目指し、地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」を開催した。

主催：内閣官房地理空間情報活用推進室



【実地開催】

開会式（オープニングセレモニー）

- 日時 令和4年12月6日（火） 10:00～10:20
- 会場 4F展示室メインステージ
- 内容 主催者挨拶（10:00～）
テープカット（10:15～）

【主催者挨拶】

国土交通副大臣 石井 浩郎 〔写真左〕
公益社団法人日本測量協会会長 清水 英範 〔中〕
一般財団法人衛星測位利用推進センター
常務理事 三神 泉 〔右〕



【テープカット】



〔写真左から〕

内閣府宇宙開発戦略推進事務局参事官	上野 麻子
一般財団法人衛星測位利用推進センター常務理事	三神 泉
公益社団法人日本測量協会会長	清水 英範
国土交通副大臣	石井 浩郎
国土交通省国土地理院長	高村 裕平
国土交通省不動産・建設経済局次長	吉田 誠

【オンライン開催】 配信画面（メインページ）

G空間EXPO公式HP (<http://www.g-expo.jp>) をオンライン会場とし、次のように構成・表示した。

(全体)



Geo spatial G空間EXPO 2022
地理空間情報科学で未来をつくる
G空間で創るデジタル社会

G空間EXPOとは
「G空間（情報）」は、将来が期待される重要科学分野の一つである「地理空間情報技術（=Geospatial Technology）の頭文字のGを用いた、「地理空間（情報）」の愛称です。
G空間EXPOは、地理空間情報高度活用社会（G空間社会）の実現に向けて、産学官が連携し、地理空間情報と衛星測位の利活用を推進する場として開催されるイベントです。

会場開催
2022年12月6日（火）・7日（水）10:00～17:00 **入場無料**

会場 東京都立産業貿易センター浜松町館4F（東京ポートシティ竹芝オフィスタワー）

当日のプログラムはこちら

オンライン開催
2022年12月1日（木）～25日（日）

オンライン会場はこちらから

地理空間情報フォーラム | Geo アクティビティコンテスト | 講演・シンポジウム

■ オンライン会場 **オンライン会場はこちらから**

コンテンツ配信画面へ遷移するリンクバナーを配列

- 地理空間情報フォーラム**
- Geo アクティビティコンテスト**
- 講演・シンポジウム**

■ 「基調講演・トークセッション」

オンライン配信を見る

日時、タイトル、出演者を掲載

基調講演・トークセッション

12/6（火）11:00-12:00 **Live**

基調講演
デジタル社会における地理空間情報のポテンシャル～デジタル庁の取組を中心に～
デジタル庁デジタル社会共創機能グループ データ/ベース・レジストリ担当 中村 弘太郎 氏 [オンライン配信を見る](#)

12/6（火）13:00-13:50 **Live**

基調講演
ドローンの衛星測位と東京湾横断飛行および展望
千葉大学名誉教授、日本ドローンコンソーシアム会長、先端ロボティクス財団理事長 野波 健蔵 氏 [オンライン配信を見る](#)

12/7（水）10:30-11:20 **Live**

トークセッション
地理空間情報アーカイブ・プラットフォーム最新動向とコンテンツ開発の民主化
東京大学大学院 情報学環・学際情報学府教授 渡邊 英徳 氏 × 青山学院大学 地球社会共生学部教授 古橋 大地 氏 [オンライン配信を見る](#)

2. 基調講演、トークセッション

主催：G空間EXPO運営協議会

基調講演、トークセッション

■ 基調講演、トークセッション

第4次地理空間情報活用推進基本計画に基づき、産・学・官それぞれから、G空間情報にかかる政府の取組、最新の動向等をテーマに基調講演、トークセッションを会場メインステージにて実施。合わせて講演当日のライブ配信及びオンライン開催中にオンデマンド配信を実施。

アクセス数	ライブ	計 785件
	オンデマンド	計 649件 (12/6～25)

■ 基調講演

○ 中村 弘太郎氏

デジタル庁デジタル社会共通機能グループデータ／ベースレジストリ担当

日時：令和4年12月6日（火曜）10時～12時

テーマ：デジタル社会にける地理空間情報のポテンシャル
～デジタル庁の取組を中心に～

○ 野波 健蔵氏

千葉大学名誉教授／日本ドローンコンソーシアム会長／先端ロボティクス財団理事長

日時：令和4年12月6日（火曜）13時～13時50分

テーマ：ドローンの衛星測位と東京湾横断飛行及び展望

■ トークセッション

○ 渡邊 英徳氏 東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授

○ 古橋 大地氏 青山学院大学地球社会共生学部教授

日時：令和4年12月7日（水曜）10時30分～11時20分

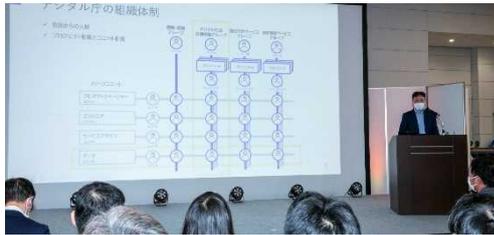
テーマ：地理空間情報アーカイブ・プラットフォーム最前線とコンテンツ開発
の民主化

基調講演、トークセッション

■ 基調講演、トークセッションの様子

基調講演

中村弘太郎氏
(デジタル庁社会共通機能グループ データ/レジストリ担当)



基調講演

野波 健蔵氏
(千葉大学名誉教授、日本ドローンコンソーシアム会長、先端ロボティクス財団理事長)



トークセッション

渡邊英徳氏
(東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授)

×



トークセッション

古橋大地氏
(青山学院大学地球社会共生学部教授)



3. 地理空間情報フォーラム2022

主催：（公社）日本測量協会
（一社）全国測量設計業協会連合会
（一社）日本測量機器工業会
（公財）日本測量調査技術協会

地理空間情報フォーラム

企業・団体・機関の動画・写真等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介しました。各出展者による高度で専門的な動画を通じ、G空間社会についてもっと知りたいといった一般の方々や、情報収集を目的としたビジネス層のニーズに対応しました。

名称 地理空間情報フォーラム2022

会期 オンライン開催：2022年12月1日(木)～12月25日(日)
実地開催：2022年12月6日(火)～12月7日(水)

会場 オンライン開催：G空間EXPO2022WEBサイト内
実地開催：東京ポートシティ竹芝（東京都立産業貿易センター 浜松町館4F）

主催 公益社団法人 日本測量協会
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会
一般社団法人 日本測量機器工業会
公益財団法人 日本測量調査技術協会

地理空間情報フォーラム

■ 出展者一覧

小間 番号	出展者	タイトル
1	ソフトバンク株式会社	高精度測位サービス「ichimill（イチミル）」のご紹介
2	マップボックス・ジャパン合同会社	Mapboxが魅せる！無限に広がる情報活用の世界
3	G空間情報センター	スマートシティの先へ～G空間情報の活用による課題解決支援～
4	国土交通省	[国土交通省]バリアフリー・ナビプロジェクトの取り組み紹介
5	国立研究開発法人産業技術総合研究所	G空間情報解析プラットフォーム
6	朝日航洋株式会社	オープンソースソフトウェアQGISと3次元空間情報サービスgood-3D
7	MetCom株式会社	屋内外シームレスに測位するGPS補完型三次元位置情報サービス
8	総務省 統計局	地図で見る統計（jSTATMAP）【総務省統計局】
9	一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構	衛星測位への取り組み 2022年
10	内閣府宇宙開発戦略推進事務局 / 準天頂衛星システムサービス株式会社	みちびきショーケース
11	国土交通省 国土地理院	国家座標とこれからの高精度測位社会
12	イチBizアワード（株式会社角川アスキー総合研究所）	地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト『イチBizアワード』
13	アジア航測株式会社	G空間で未来を見晴らす
14	ESRIジャパン株式会社	GISプラットフォーム「ArcGIS」
15	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	地球を見守る「だいち」の目 ～地球観測衛星「だいち3号」と「だいち4号」のご紹介～
16	株式会社パスコ	地球をはかり、未来を創る
17	株式会社快適空間FC	地理空間情報と衛星測位の利活用を推進
18	Precisely	Preciselyグローバルデータコレクション
19	PAX INTERNATIONAL	世界28カ国で重宝されています
20	ジオサーフ株式会社	GNSS（GPS）などの測位システムを空間情報に融合した革新的なICTソリューションの提供
21	国際航業株式会社	空間情報で未来に引き継ぐ世界をつくる
22	リーグルジャパン株式会社	ハイエンドモデル RIEGLレーザースキャナーによる高密度な3Dデータ
23	株式会社オーピーティー	ドローンレーザー、SLAMスキャナー、写真計測ソフトウェアのご紹介
24	株式会社サテライトイメージマーケティング	Airbus DS社 衛星画像関連製品のご紹介(Pléiades Neo他)
25	株式会社MIERUNE	ファイル共有サービス・QGIS講習会
26	一般財団法人日本地図センター	地図を見る・学ぶ・楽しむ！ 一般財団法人 日本地図センター
27	一般社団法人 日本測量機器工業会	日本測量機器工業会 紹介
28	公益社団法人日本測量協会	日本測量協会の業務紹介
29	図書コーナー	関連図書の展示及び販売
30	「測量の日」実行委員会	「測量の日」のご紹介と子供も大人も楽しめるクイズコーナー
31	ソクジヨの会/地理系女子フォーラム	活動内容の紹介

地理空間情報フォーラム

■ 出展概要

小間番号	出展者	タイトル	概要
1	ソフトバンク株式会社	高精度測位サービス「fichimill（イチミル）」のご紹介	ソフトバンクでは、人工衛星を利用した低コストな高精度測位補正情報配信サービス「fichimill（イチミル）」を提供しております。 「fichimill」は、準天頂衛星「みちびき」などのGNSSから受信した信号を利用してRTK測位を行うことで、誤差数センチメートルの測位を可能にするサービスです。 「fichimill」は農業や自動車業界、建設業界などのさまざまな分野や業界でご活用頂いております。ソフトバンクはこのサービスの提供を通じ、さまざまな業界のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進していきます。
2	マップボックス・ジャパン合同会社	Mapboxが魅せる！無限に広がる情報活用の世界	測量技術の発展により、情報収集スピードが加速し続ける現代。 その情報を最新の地図技術と組み合わせると、どのような未来が待っているのでしょうか。 Mapboxは、誰でも自由自在に地図情報を表現できる地図開発プラットフォームです。 多彩な表現かつ高いカスタマイズ性で、デザイン性や視認性の高い地図制作を実現。 さらに、持て余しうる膨大な情報をリアルタイムで表示できるデータ処理能力を有しているため、防災・農業・ドローンをはじめ、あらゆる分野で思い描いた理想の地図サービスをカタチにします。 Mapboxを用いたビジュアルライゼーションによる、無限に広がる情報活用の世界をご覧ください。
3	G空間情報センター	スマートシティの先へG空間情報の活用による課題解決支援～	G空間情報センターは、様々な主体が様々な目的で整備している地理空間情報（=G空間情報）の有効活用と流通促進、また社会課題を解決するアクターの後方支援を行うためのデータ流通支援プラットフォームです。当センターでは、利用者が必要となるG空間情報や関連する情報がワンストップで検索入手できるサービスを提供するほか、研究開発やデータキュレーションなど、イノベーション創出に向けた事業を展開しています。当センターは平成24年3月に政府で閣議決定された地理空間情報活用推進基本計画に基づき設立され、一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会が運用を行っています。
4	国土交通省	【国土交通省】バリアフリー・ナビプロジェクトの取り組み紹介	国土交通省では、歩行空間における段差や傾斜といったバリア情報や、車いすでも利用することができるエレベータやバリアフリートイレの設置位置といったバリアフリー情報を「歩行空間ネットワークデータ」として、自治体や事業者と協力して収集し、オープンデータとして様々な分野で活用できるような環境整備を推進する『バリアフリー・ナビプロジェクト』を実施しています。 バリアフリーデータ等の整備効率化や高度化を図ることで、高齢者や障害者（車いす利用者や視覚障害者等）をはじめ、自動走行モビリティ等の人や物がストレスなく自由かつ安全に移動できるユニバーサル社会を目指します。
5	国立研究開発法人産業技術総合研究所	G空間情報解析プラットフォーム	産業技術総合研究所で研究を進めている「人やモビリティ、ロボットの『移動』」に着目したG空間に関する研究開発事例を紹介いたします。特に、（1）大規模な移動体データ管理・利活用、（2）大規模人流解析、（3）車輪型移動体向け自律航法技術、（4）高精度マーカによる測位、（5）自律移動ロボットによる人・環境理解など、基礎的な研究から応用的な研究まで幅広く紹介いたします。また自律移動ロボットが会場内を動き回ります。
6	朝日航洋株式会社	オープンソースソフトウェアQGISと3次元空間情報サービスgood-3D	G空間DXにお薦め、誰でも今すぐに自由に使える地理情報システム「QGIS」と、3次元空間情報サービス「good-3D」をご紹介します。さらに、今、話題になっている VIRTUAL SHIZUOKA の3次元点群データの活用事例も紹介いたします。
7	MetCom株式会社	屋内外シームレスに測位するGPS補完型三次元位置情報サービス	MetComは、GPSの主要課題である「屋内・地下」、「垂直測位」、「セキュリティ問題」を解決し、屋内外でシームレスに利用可能な三次元測位サービスを提供します。まち全体をカバーする地上波ネットワークを構築し、電波測位と気圧分析を組み合わせることで、緯度、経度、高さ情報を提供する仕組みです。GPSと互換性を確保したシステムであり、利用者は、サービスエリア内の全域で、屋内においても建物内センサー不要で三次元位置情報を取得可能です。この三次元測位サービスをご紹介します。更に、第一弾サービスとして現在提供中の「垂直測位サービス」もご紹介いたします。特許技術の気圧分析技術を利用したサービスで、建物内でフロア特定が可能です。
8	総務省 統計局	地図で見る統計 (jSTATMAP) 【総務省統計局】	jSTAT MAPは、総務省統計局が整備する地理情報システムです。統計地図の作成や、利用者のニーズに沿った地域分析が可能となるようなさまざまな機能を提供しています。簡単な操作で、初めてでも使いやすく、都道府県、市区町村、小地域（町丁・字）、メッシュ毎の統計の結果を地図上に表示するなど、『視覚的』に統計データを把握することができ、防災、施設整備、市場分析等、詳細な計画立案に役立つ基本的な分析を行うことが可能です。
9	一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構	衛星測位への取り組み 2022年	衛星測位は様々な分野での利用が近年ますます広がっています。今回の宇宙システム開発利用推進機構の展示では2022年の弊財団衛星測位事業本部の最新の取り組みをわかりやすくお伝えします。
10	内閣府宇宙開発戦略推進事務局 / 準天頂衛星システムサービス株式会社	みちびきショーケース	日本版GPSとも呼ばれる準天頂衛星システム「みちびき」は、2018年11月に4機体制でのサービスを開始して以来4年が経過し、各分野での利活用が更に加速しているとともに、7機体制に向けた整備が進められています。また、本年3月には2010年に打上げた初号機の後継機がサービスを開始しました。 今回の展示では、正確な位置情報を活用した最新の実証実験を紹介するとともに、各分野の「みちびき」対応製品や小型化・低価格化が開発が進む受信機、さらには、「みちびき」の災害通報機能を活用した対応製品についても紹介することで、「みちびき」の最先端を一堂にご覧いただけます。

地理空間情報フォーラム

■ 出展概要

小間番号	出展者	タイトル	概要
11	国土交通省 国土地理院	国家座標とこれからの高精度測位社会	<p>国土地理院は、地図と測量に関する国家機関として、地球上における日本の正確な位置を「国家座標」として定め、各地の位置の基準となる基準点を整備しています。そのうち、電子基準点は「みちびき」等からの信号をもとに正確な位置を計測し続けており、地殻変動観測や測量作業に利用されています。近年では農業機械や建設機械などの自動運転システムにも利用されています。また、国家座標に整合した基本的な地図情報や標高データの整備、測量・地図の技術を活かした防災・減災への取組も重要な活動です。</p> <p>展示ではこれらの取組を簡潔にお伝えし、国土地理院のことを少しでも知って頂ければと思います。詳しくはリンク先へ！</p>
12	イチBizアワード (株式会社角川アスキー総合研究所)	地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト『イチBizアワード』	<p>地理空間情報を活用した多様なサービスの創出・提供を後押しし、誰もがいつでもどこでも自分らしい生き方を享受できる社会の実現を目指し、地理空間情報の認知拡大を目的としたビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」を官民連携にて実施しました。</p> <p>初年度となる今年は「地理空間情報×ミライ」をテーマに、地理空間情報を活用した事業化・事業の発展を目指すビジネスアイデアや、ちょっとしたサービスアイデアを広く公募したところ、中学生からも応募いただき総数390件と想定を大きく超えるご応募を頂きました。</p> <p>このブースでは審査を通過した優秀作品のご紹介と、本趣旨に賛同いただいた協賛企業の取り組みなどを紹介しております。</p>
13	アジア航測株式会社	G空間で未来を見晴らす	<p>G空間社会は、私たちの日々の生活を、より安全に、より豊かにします。</p> <p>アジア航測は新たな生活スタイルの社会基盤を「空間情報」で支える企業に発展し続けます。</p> <p>激甚化する災害の予防～対策～復旧・復興を支え、空間情報コンサルティングの深化により持続可能な社会を実現し、センシングイノベーションが生活・インフラに融合した未来社会の構想をすすめます。そのため、センシング、IoT、AI、ARなどの技術を用いて、人やモノの位置や動きを把握し、仮想空間に物理空間の環境を再現、シミュレートによる将来予測、さらには可視化して相互の円滑なコミュニケーションを図ります。人間・社会・地球環境の持続可能な発展のために。私たちは、これから“G空間で未来を見晴らす”を、皆様とともに目指してまいります。</p>
14	ESRIジャパン株式会社	GISプラットフォーム「ArcGIS」	<p>GIS (Geographic Information System : 地理情報システム) は、地球上にある事物の位置や形状の情報と、文字や数値の属性情報から構成される地図 (地理情報) を、視覚化、分析、管理するための情報システムです。</p> <p>地図は私達を取り巻く全てのものを体系づけ、理解させてくれます。インターネットが社会基盤となり、クラウドコンピューティングを始めとする IT 社会において、地図はあらゆるシーンで利用され、GIS は必須のツールとして、市場も大きく成長しております。</p> <p>ESRIジャパンは、Esri (米国) 製品の総販売代理店として、ソフトウェアとサービス、そしてシステムの提供を行い、グローバルな GIS コミュニティの成長を支援しながら、社会に貢献してまいります。</p>
15	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	地球を見守る「だいち」の目 ～地球観測衛星「だいち3号」と「だいち4号」のご紹介～	<p>地球観測衛星の観測データは、地図や防災、農林水産業など幅広い分野で活用されています。JAXAでは今後、高い分解能と広い観測幅を両立させた光学衛星「だいち3号」と、前号機「だいち2号」から地殻・地盤変動などの観測頻度を向上させたレーダー衛星「だいち4号」という地球観測衛星の打ち上げを予定しています。 そんな「だいち3号」「だいち4号」の観測データをより多くの方にご利用いただくために、衛星や観測データ、想定される利用事例を盛り込んだ展示を行います。ポスターや資料に加えて、データの利用推進に詳しい職員による解説も御座いますので、お気軽にお立ち寄りください！</p>
16	株式会社パスコ	地球をはかり、未来を創る	<p>パスコは、最先端の空間情報技術により、社会のあらゆる課題を解決しています。パスコブースでは、「地球をはかり、未来を創る」と題し、以下の内容をご紹介します。</p> <p>■DXを支える空間情報収集技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いよいよ打ち上げへ！国産衛星「ALOS-3」 ・一度の走行で道路空間データを一挙に取得「Real Dimension」 ・地上+水底の3次元地形を一気に取得「TDOT 3 GREEN」 <p>■都市空間の3DX</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3次元ビジュアライゼーションソフトウェア「Skyline」 ・リアフリーナビ・プロジェクト ・3D都市モデルを活用した安心安全なまちづくりの取り組み <p>■インフラ監視の3DX</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IoTによるインフラ遠隔監視サービス「Infra Eye」 ・自律飛行ドローンを活用したインフラ監視の実用化にむけて
17	株式会社快適空間FC	地理空間情報と衛星測位の活用を推進	<p>当社の強みである計測技術を展示し、災害に強いまちづくりの提案を考えております。また、民間等電子基準点 (RG-CORS) の設置のご提案も行い災害復興に対するご提案も行いたいと考えております。</p>
18	Precisely	Preciselyグローバルデータコレクション	<p>「より良い決断は、より良いデータから」を信念に、Preciselyは弊社製品あるいは他社製品でも使用可能な240カ国以上の世界最大のグローバルデータを提供しています。レアな国のデータもたくさん保有しています。データ製品のポートフォリオは、以下のカテゴリーに集約されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 住所 (グローバルジオコード) ● 行政界、郵便番号などの標準境界 ● ライフスタイル/デモグラフィックス/人口統計 ● POI (Point of Interest) ● 道路ネットワーク

地理空間情報フォーラム

■ 出展概要

小間番号	出展者	タイトル	概要
19	PAX INTERNATIONAL	世界28カ国で重宝されています	DAT/EM System International社はデジタル航空写真、地上写真、地上写真、衛星写真を使用して地図作成、オルソ画像、MMS地図作成等の多目的な用途達成の為にSummit Evolution、Landscape、Dgn Dwg Capture、MapEditor、Ortho+Mosaic、Contour Creator、UAS等の製品を開発しております。またサポートチームも迅速に対応する為に安心して活用できます。
20	ジオサーフ株式会社	GNSS (GPS) などの測位システムを空間情報に融合した革新的なICTソリューションの提供	<p>◇ジオサーフは、GNSS (GPS) などの測位システムを空間情報に融合した革新的なICTソリューションを開発・提供している。同社の代表的なソリューションは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ モバイルGIS：森林や農業などのフィールドでのGISデータ収集、マッピングを効率的に行えるモバイルGIS製品を用意している。GNSS (GPS) 内蔵のハンドヘルドデバイス、ノンプリズム距離計など、ローエンドからハイエンド、メートルからサブメータ、ミリメータ精度まで、アプリケーションに応じて選択できる ▶ イメージング：地上ではレーザースカナ、上空からはUAVで3次元データを効率的に取得できる最新鋭のイメージング製品の提供 ▶ 精密農業：情報化施工で培った技術を農業へ、ユーザーオリエントドなトラクターガイダンスシステムを提供 ▶ OEM：GNSSセンサーやボード、堅牢型PDAなどのOEM製品や、建設・農業機械シミュレーターを提供
21	国際航業株式会社	空間情報で未来に引き継ぐ世界をつくる	国際航業は、ミッション「空間情報で未来に引き継ぐ世界をつくる」を掲げ、3DやAIなどの先端技術を活用し、国土保全やまちづくりに関する「計測・解析・利活用」のトータルソリューションを提供しています。今回のG空間EXPO/地理空間情報フォーラムでは、当社も参画している国土交通省のPLATEAU事業をはじめとする3D都市モデルの構築・利活用やGNSS（全球測位衛星システム）を活用した地盤の変位計測からスポーツ分野での活用まで、G空間DXを先導する各種サービスを幅広くご紹介いたします。
22	リーグルジャパン株式会社	ハイエンドモデル RIEGLレーザースカナによる高密度な3Dデータ	レーザースカナのバイオニアRIEGL社の航空レーザー、UAVレーザー、MMS、地上型レーザー、各カテゴリーにおける最新機種、最新情報をご紹介します。 航空レーザー、UAVレーザー、地上型レーザーの新製品は、全てが最大毎秒200万発以上の発射レートになりました。これまで以上に、高密度な3次元空間情報が取得可能となります。 地上型レーザースカナ 新製品「RIEGL VZ-600i」は、これまでのTLS製品よりも、高速化・軽量化を実現。RIEGLの特長である長距離測定能力、マルチターゲット計測も可能な次世代のTLSです。 動画・資料にてご説明させていただきます。
23	株式会社オーピーティ	ドローンレーザー、SLAMスカナ、写真計測ソフトウェアのご紹介	①カメラ搭載ドローンレーザーAA450（販売価格 328万円・税込）はレーザー測量と写真測量で使用でき、対地高度は100mです。24 MPカメラ、IMU、解析ソフトを含みます。Metashapeで使用可能な写真の主点座標（Photoscan.txt）をJGD2011で出力できます。カリブレーションレポートを出力できます。反射強度が鮮明で白黒画像をくっきり表示しターゲット板を容易に認識できます。精度検査（RMS）は多くの場合、5cm以下です。② 2機種のSLAMスカナ（販売価格 286万円）は、360 x 270°の範囲を32万点/秒で計測し、自動でカラー点群を作成できます。③ SfMソフト 3DFゼファーはバンドル調整計算機能があり、測量以外に大型の構造物や工業製品のモデル化に利用され、特に立体物の3D化に強みを持つソフトです。
24	株式会社サテライトイメージマーケティング	Airbus DS社 衛星画像関連製品のご紹介 (Pléiades Neo 他)	株式会社サテライトイメージマーケティング(SIM)は、フランスAirbus Defence and Space(Airbus DS社)が提供する衛星画像とその関連製品を日本国内で販売する代理店です。従来弊社が取り扱っておりましたSPOT6号・7号(1.5m分解能)、Pléiades(50cm分解能)のラインナップに、30cmの解像度を備え、同一4基のコンステレーションで構成されるPléiades Neoが新たに加わります。毎日アップデートされるこれらの衛星画像は、いずれもWeb上、OneAtlasのプラットフォームで実際のデータと同じ解像度でのストリーミング・閲覧、ダウンロードが可能となっております。
25	株式会社MIERUNE	ファイル共有サービス・QGIS講習会	<p>「位置情報のMIERUNE」として、コンサルティングやシステム開発でお客様の課題をサポートしています。今回は2つのサービスを中心に紹介します。</p> <p>【ファイル共有サービス：MIERUNE BASE】 MIERUNE BASEは最新の位置情報データをブラウザやQGISで閲覧・参照でき、円滑な位置情報データの流通を支援するサービスです。</p> <p>【QGIS講習会：MIERUNE QGIS トレーニングキャンプ】 世界的なオープンソースソフトウェアであるQGISの講習会を開催しており、初心者から上級者までのニーズに応じた受講が可能です。</p>
26	一般財団法人日本地図センター	地図を見る・学ぶ・愉しむ！ 一般財団法人 日本地図センター	一般財団法人日本地図センターは、国内外の各種地図、空中写真等を広く収集して体系的に整備保管し、総合的な地図情報サービスを行なうとともに、国土地理院の地図の刊行、地図に関する調査研究等を行うために、1972（昭和47）年に設立され、2022（令和4）年2月に設立50周年を迎えました。 地図を見る・学ぶ・愉しむをコンセプトに、地図や地理空間情報を活用して、私たちの暮らしがより実り多いものとなるように、地図や地理空間情報の収集、提供、調査研究、普及活動などを行っています。

地理空間情報フォーラム

■ 出展概要

小間番号	出展者	タイトル	概要
27	一般社団法人 日本測量機器工業会	日本測量機器工業会 紹介	日本測量機器工業会は昭和21年4月創立以来、約76年にわたり国内で唯一の測量機器産業の団体として活動を続けてまいりました。関係省庁や関連団体との関係を深め、測量機器工業界の代表機関として、測量機器に関するJIS・ISO・工業会規格の草案作成その普及促進、基本測量や公共測量に用いる測量機器の校正・検査・検定制度、民間等電子基準点の検定、それを利用したGNSS測量に関する研究などの分野で活動し、産業界並びに国民経済発展に貢献しています。
28	公益社団法人日本測量協会	日本測量協会の業務紹介	公益社団法人日本測量協会は、昭和24年の測量法の制定と、測量士・測量士補の国家資格の創設を契機に、測量技術の普及発達と会員相互の親和・社会的地位の向上を図ることを目的として、昭和26年に官・学・産各界の有志により測量技術者の会員団体として設立された内閣府認定の公益法人です。会員相互の親和、社会的地位の向上のための月刊誌『測量』の発行、測量技術に関する図書の出版、測量専門技術者の認定や各種講習会及び地理空間情報フォーラム等の開催などを通じて最新の測量技術を普及する教育等を実施しています。
29	図書コーナー	関連図書の展示及び販売	図書コーナーでは、関連図書の展示及び販売をいたします。測量の基礎技術をわかりやすく解説した入門書、測量士・測量士補の国家試験問題とその解答を詳しく解説した受験対策図書、測量技術者のための実務書ならびに基本測量の各種作業規程などの関連図書を紹介しております。新刊図書『測量実務者のためのライブラリー』、『点群データの取得と処理』、『女性地理空間情報コンサルに訊け!』、さらに『作業規程の準則』ほか4冊の『作業規程の準則』関連図書も展示しております。是非、図書コーナーにお立ち寄りください。
30	「測量の日」実行委員会	「測量の日」のご紹介と子供も大人も楽しめるクイズコーナー	測量法が昭和24年6月3日に公布され、平成元年に制定40周年を記念して、建設省（現国土交通省）が6月3日を「測量の日」としました。「測量の日」実行委員会（測量・地図関係7団体で構成）を中心に、測量の意義及び重要性について国民の理解と関心を一層高めるとともに、地理空間情報のさらなる利活用の促進を図るため、国土交通省、国土地理院、関係省庁、地方公共団体及び関係団体等の協力を得て、全国各地で関連行事を実施しています。パネルで「測量の日」のご紹介と子供も大人も楽しめるクイズコーナーを用意しました。
31	ソクジョの会/地理系女子フォーラム	活動内容の紹介	測量や地理空間情報を扱う仕事に従事する全ての女性に向けて、視野を広げ知識や技術を深めることができる場づくり、及び情報交換・親和などを目的として、公益社団法人日本測量協会内に設立した委員会「ソクジョの会」のブースです。G空間Expo.では、気軽に幅広く情報共有ができる場として、12/7にソクジョトークと、悩みや知見を共有し活動しやすい環境を作ること、女性の進学先や就職先として業界の可能性を提示し、女性比率増を目指すことを目的として今年6月に設立された「地理系女子フォーラム」と合同セッションも開催します。ブースではソクジョの会の活動案内や技術情報冊子の配布を行っています。

地理空間情報フォーラム

■ 掲載動画

小間番号	出展者	動画タイトル	動画概要
1	ソフトバンク株式会社	高精度測位サービス「ichimill（イチミル）」のご紹介 ドローンが作る未来の社会～物流ドローンの取り組み～	高精度測位サービス「ichimill」のサービス内容・特徴をご紹介します。 物流でのドローンの高精度測位サービスの活用事例をご紹介します。
2	マップボックス・ジャパン合同会社	Mapbox紹介動画 Mapbox 3Dマップで見る富士山 Mini Tokyo 3Dマップ リアルタイム東北応援企画	Mapboxは使う人のニーズに合わせた地図を制作できるプラットフォームです。「導入のしやすさ」「拡張性の高さ」「UI/UXを最大化する豊かな表現力」の特長から、国内外で多くの企業に採用されています。 Mapboxは3Dマップにも対応しており、自由なカメラ視点で表現することができます。MapboxのAPIを利用した富士山の表現例です。 一般の開発者がMapboxを活用して作成した東京の鉄道3Dマップです。リアルタイムな電車の動きや駅周辺のライブカメラデータを可視化しており、今の状況を確認できます。 ツール・ド・東北 2022のために開発したマップです。大会に参加しているライダーの現在位置をリアルタイムに地図上に可視化。リプレイ機能で後から走行記録を振り返ることもできます。
4	国土交通省	バリアフリー・ナビプロジェクト～バリアフリー情報の整備について～ バリアフリー・ナビプロジェクト～歩行空間における走行モビリティの紹介と歩行空間データ整備の重要性について～	国土交通省では、歩行空間上にある様々な情報をオープンデータとして整備しています。「歩行空間ネットワークデータ整備ツール」は、歩行空間上にある様々な情報を地図情報として直接入力してオープンデータを作成できます。 現在でも歩行空間を走行している電動車いすや、自動走行ロボットなどの開発を進めている民間企業の事例紹介と、走行モビリティの普及・拡大へ向けた歩行空間データ整備の重要性について説明します。
5	国立研究開発法人産業技術総合研究所	G空間情報解析プラットフォームの活用	産業技術総合研究所で研究を進めている「人やモビリティ、ロボットの『移動』に着目したG空間情報解析プラットフォームの活用事例を紹介します。
6	朝日航洋株式会社	オープンソースソフトウェアQGISとコンテンツのご紹介 VIRTUAL SHIZUOKA ～3次元点群データでめぐる伊豆半島～ VIRTUAL SHIZUOKA ～謎解き3次元地形の旅！伊豆半島のふしぎ～	G空間DXにお薦め、誰でも今すぐに自由に使える地理情報システム「QGIS」とコンテンツをG空間初心者にもやさしく紹介します。 伊豆半島の各所（熱海市街地、大室山、城ヶ崎海岸、七滝高架橋、下田市街地 など）の3次元点群データを映像化してご覧いただくとともに、あわせてデータの利活用方法についても紹介します。 東部・伊豆地域の歴史・産業・インフラなどについてひとつひとつが緯度、経度、標高の情報を持った点の集まりである3次元点群データを活かしてご紹介します。
7	MetCom株式会社	建物内移動（高層階・屋上） 建物内移動（地下）	東京・銀座の建物内移動の様子を、垂直測位サービスPinnacleを組み込んだアプリで表示し、スマートフォンカメラで撮影した動画と比較したビデオです。1階から屋上まで上がり、建物内へと戻ります。 東京・銀座の建物内移動の様子を、垂直測位サービスPinnacleを組み込んだアプリで表示し、スマートフォンカメラで撮影した動画と比較したビデオです。地下へと移動します。
8	総務省統計局	地図で見る統計（JSTAT MAP）	総務省統計局が整備する、地図で見る統計（JSTATMAP）の紹介動画です。
13	アジア航測株式会社	3D都市モデルの利活用・発信による“まちづくりのDX”を支援する AAS-DX 釣りドコ Hec-Eye	3D都市モデルとは、都市空間に存在する建物などのオブジェクトに名称や用途などの都市活動情報を付与することで、都市空間そのものを再現する3D都市空間情報プラットフォームです。これを活用し都市計画、まちづくり、防災など、society 5.0の実現を推進します。 無料で超高精細なオンラインの海底地形が見られるWebアプリ「釣りドコ」。最新の計測技術で釣りの世界にDX！海底地形で魚の居場所がまる分かり！ Hec-Eyeはドローン映像等の情報共有システムです。複数現場の状況をドローンやスマートフォンでリアルタイムに遠隔地と共有でき、情報管理の一元化が可能になります。会場ではデモもご覧いただけます！
14	ESRIジャパン株式会社	ESRIジャパンのご紹介	世界中で利用されているArcGIS製品は、ビジネスや公益インフラ分野などさまざまな業界で活用されています。ESRIジャパンはGISとともに地球環境問題や持続可能な社会の実現を目指します。
15	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	地球観測衛星「だいち3号」のご紹介	JAXAが打上げを予定している、「だいち3号」の特徴やミッション等をご紹介します。
16	株式会社バスコ	G空間DXを支える空間情報収集技術	G空間DXを支える3つの最新計測技術をご紹介します。 ①先進光学衛星「ALOS-3」 ②道路空間情報収集の最新技術「Real Dimension」 ③ドローン搭載型グリーンレーザースキャナ
18	Precisely	Precisely - Trust in Data	Preciselyのデータ統合、データ品質、データガバナンス、ロケーションインテリジェンス、データエンリッチメント製品は、ビジネスのより優れた意思決定を促進し、より優れた成果を創出します。

地理空間情報フォーラム

■ 掲載動画

小間番号	出展者	動画タイトル	動画概要
20	ジオサー株式会社	Introducing ComNav P8H - 日本語字幕版	ComNav Technology社のP8Hは、GNSSフルコンステレーションとマルチ周波数に対応したプロフェッショナルGNSSタブレットです。高性能なK803 GNSSモジュールとヘリカル、または測地グレードアンテナを搭載し、外部機器なしでセンチメートル単位のRTK測位が可能です。GISとRTK測定の両方に革命をもたらします。
		固定翼ドローンを選ぶ5つの理由	小型マルチコプターではなく、固定翼ドローンを選ぶ理由はなぜでしょうか。そこにある5つの理由をご紹介します。
		TrinityF90Plus Launchfilm 2022 日本語字幕付き	Trinity F90+は、固定翼ドローンのように効率よく長時間飛行しながら、マルチローター・ドローンのように簡単に垂直離着陸することができます。一般的な固定翼ドローンに比べてペイロードが大きく、RGBカメラやマルチスペクトラルカメラの搭載はもちろん、LiDARセンサーも搭載可能です。
		QUBE240 Lidar TrinityF90+ Launchfilm 日本語字幕版	LiDARセンサーを搭載できるTrinity F90+、その開発ストーリーを紹介します。
		Introducing Aeries II - 日本語字幕版	Aeva社は、自動車、産業、その他の用途で自律性を可能にするオートモーティブ・グレードの信頼性を備えた、次世代4D LiDAR™センサーであるAeries™ IIを発表しました。このセンサーは、Aeva社独自の周波数変調連続波（FMCW）技術と世界初のLiDARオンチップモジュールデザインを活用することで、3次元の位置に加えて、各点の4次元の瞬間的な速度を独自に検出します
Aeries II: The Journey to Production 日本語字幕版	カリフォルニア州マウンテンビュー、2022年7月13日 - 次世代のセンシング・知覚システムのリーダーであるAeva社は、最初のAeries™ II 4D LiDAR™センサーの生産と戦略顧客への出荷を開始し、大量生産に向けて大きな一歩を踏み出しました。		
21	国際航業株式会社	都市のDXソリューション	3D都市モデルを基盤としてデジタルツインの実現に向け3D都市モデルの構築から各種シミュレーションまで一気通貫で提供することにより、都市のデジタルトランスフォーメーションを強力に支援します。
		人流データを活用した都市モニタリングソリューション	当社の提供する人流データを、2D地図上だけでなく3D都市モデル上でも可視化・分析することで、イベント対策や観光分野・防災分野などにおける、あらゆる政策立案をサポートします。
22	リーグルジャパン株式会社	RIEGL VZ-600i 地上型レーザー 新しい時代へ	RIEGL社のTLS最新モデルVZ-600iのご紹介。 最大発射レート220万点/秒、計測時間30秒(6mm@10m)の超高速スキャン。これまでのTLSよりも軽量化・高速化を実現。
23	株式会社オーピーティ	OPT movieドローンレーザー、SLAMスキャナー、写真計測ソフトのご紹介	①ドローンレーザー点群データの地形断面の事例と精度検証、②カラー点群を自動で取得でき、室内外や森林内の計測に最適なSLAMモバイルスキャナー、③構造物や橋梁などを撮影し3Dモデルを作成して、インフラ維持管理に使用されている写真計測ソフト（3DFゼファー）をご紹介します。
24	株式会社サテライトイメージマーケティング	Pléiades Neoのコンステレーション	Airbus Defence and Space(Airbus DS社)が開発した30cmの分解能を持つ光学衛星Pléiades Neoは同じスベックを持つ4基の衛星が、同一軌道上で互いに90°の位相に位置するコンステレーションを構成し、地球上のどこでも1日2回の撮影が可能です(4基体制で)。
26	一般財団法人日本地図センター	スマートフォン・タブレット地図アプリ「東京時層地図」	旧版地図や空中写真を重ねて見ることで、地層のようにその土地の変遷を捉えることができる地図アプリです。今年2月には「関西時層地図」をリリースしました。日本全国どこでもご希望の範囲で大型タッチディスプレイで動く時層地図を受注制作いたします。詳しくはウェブサイトをご参照ください。
		あなたも地図地理博士！！地図地理検定	地図地理検定は、地図や地理の知識を豊かにし、地図を楽しみ・使う力を養うために、実施する検定です。受験資格の制限はなく、どなたでも受験できます。皆様のチャレンジをお待ちしております。
		地図展2022「新潟市へ 新潟市から」	「地図展」は、地図展推進協議会が主催し、広く国民の皆様に地図をとおして国土や地域についての理解を深めていただくとともに、より一層地図に親しみ、地図を利用していただくことを目的として実施しています。
27	一般社団法人日本測量機器工業会	日本測量機器工業会のご紹介	様々な分野で活用され進化を続ける測量・精密測位システム、これらを支える活動を推進する日本測量機器工業会についてご紹介します。

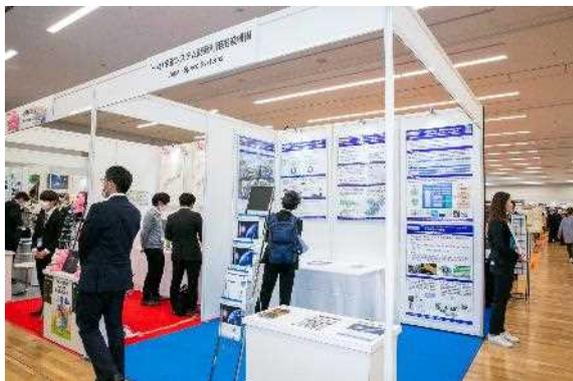
地理空間情報フォーラム

■ 実地開催写真



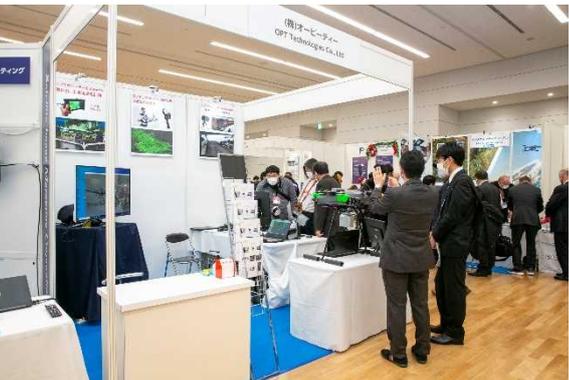
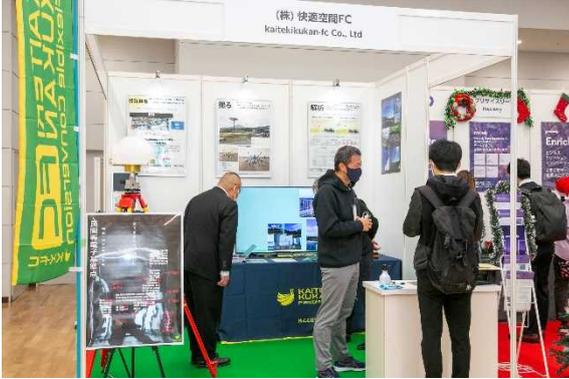
地理空間情報フォーラム

■ 実地開催写真



地理空間情報フォーラム

■ 実地開催写真



地理空間情報フォーラム

■ 実地開催写真



地理空間情報フォーラム

■ベンダーフォーラム

講演時間	出展者名	講演タイトル
12/6 14:00~14:20	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	地球観測衛星「だいち3号」と「だいち4号」のご紹介
12/6 14:25~14:45	株式会社パスコ	G空間を支える3次元ビューワー「Terra Explorer」 ー日本語版登場！
12/7 10:00~10:20	MetCom株式会社	GPS/GNSSの課題を解決すると共にバックアップインフラとして機能する、新たな三次元測位システムとは
12/7 12:40~13:00	マップボックス・ジャパン合同会社	データの見える化は地図開発プラットフォームの「Mapbox」で！国内外の先端事例を一挙公開！！



地理空間情報フォーラム

■ オンラインイメージ

G空間EXPO2022

地理空間情報フォーラム

最新のテクノロジーを見て触れよう！
(測量CPD学習プログラム 予定)

会場開催は終了しました

2022年12月6日(火)・7日(水)10:00~17:00

会場 **東京都立産業貿易センター浜松町館4F**
(東京ポードシティ竹芝オフィスタワー)

入場無料

オンライン開催は終了しました

2022年12月1日(木)~25日(日)

CPDポイント申請はこちら

提出期間 **2022年12月1日(木)~12月25日(日)**

地理空間情報フォーラム2022

Geospatial Information Forum 2022

企業・団体・機関等の展示等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等をご紹介します。

開催期間 2022年12月6日(火)・7日(水)10時~17時

会場 東京都立産業貿易センター 浜松町館4F(東京ポードシティ竹芝オフィスタワー)

参加費 無料

オンライン開催期間 2022年12月1日(木)~25日(日)

オンライン開催 地理空間情報フォーラム2022WEBサイト内

主催

(公財) 日本測量協会
(一社) 全国測量設計業協会連合会
(一社) 日本測量機器工業会
(公財) 日本測量調査技術協会

Copyright © 2022 Geospatial Expo. All Rights Reserved.

出展者紹介

出展者において配信する本オンライン開催動画は測量系CPDポイント付与対象となります。

CPDポイント申請はこちら

展覧会MAP

出展者一覧

1 ソフトバンク株式会社	2 マップボックス・ジャパン合同会社
3 G空間情報センター	4 国土交通省
5 国立研究開発法人 産業技術総合研究所	6 朝日航洋株式会社
7 MetCom株式会社	8 総務省 統計局
9 一般財団法人 宇宙システム開発利用推進機構	10 内閣府宇宙開発戦略推進事務局 / 準天頂衛星システムサービス株式会社
11 国土交通省 国土地理院	12 イチBizアワード(株式会社角川アスキー総合研究所)
13 アジア航測株式会社	14 ESRIジャパン株式会社
15 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	16 株式会社バスコ
17 株式会社快速空間FC	18 Precisely
19 PAX INTERNATIONAL	20 ジオサーフ株式会社
21 国際航業株式会社	22 リーグルジャパン株式会社
23 株式会社オービーティー	24 株式会社サテライトイメージマーケティング
25 株式会社MIERUNE	26 一般財団法人 日本地図センター
27 一般社団法人 日本測量機器工業会	28 公益社団法人 日本測量協会
29 図書コーナー	30 「測量の日」実行委員会
31 ソクジョの会/地理系女子フォーラム	

地理空間情報フォーラム

■ オンラインイメージ

公益社団法人 日本測量協会
Japan Association of Surveyors

日本測量協会の業務紹介

公益社団法人日本測量協会は、昭和24年の測量法の制定と、測量士・測量士補の国家資格の創設を契機に、測量技術の普及発展と会員相互の親和・社会的地位の向上を図ることを目的として、昭和26年に資・学・産各界の有志により測量技術者の会員団体として設立された内閣府認定の公益法人です。会員相互の親和、社会的地位の向上のための月刊誌『測量』の発行、測量技術に関する図書・測量専門技術者の認定や各種講習会及び地理空間情報フォーラム等の開催などを通して最新の測量技術を普及する教育等を実施しています。

https://www.jsurvey.jp/

お問い合わせ先
公益社団法人 日本測量協会 総務部
scombu@survey.jp

ベンダーフォーラム (出展者技術講演)

実施会場のメインステージにおいて開催したベンダーフォーラム（講演コンテンツ）を配信しています。本実地観測動画は測量系CPDポイント付与対象となります。

CPDポイント申請はこちらから

プログラム

12月6日(火) 14:00-14:20	地球観測衛星「だいち3号」と「だいち4号」のご紹介	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
12月6日(火) 14:25-14:45	G空間を支える3次元ビューワー「Terra Explorer」-日本語版登場!	株式会社パスコ
12月7日(水) 10:00-10:20	GPS/GNSSの課題を解決すると共にバックアップインフラとして機能する、新たな三次元測位システムとは	NetCom株式会社
12月7日(水) 12:40-13:00	データの見える化は地図開発プラットフォームの「Mapbox」で!国内外の先端事例を一挙公開!!	マップボックス・ジャパン 合同会社

コンテンツ

12月6日(火) 14:00-14:20	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
地球観測衛星「だいち3号」と「だいち4号」のご紹介	
12月6日(火) 14:25-14:45	株式会社パスコ

測量系CPDポイント申請

測量系CPDポイント申請に際して、注意事項及び申請方法をご確認の上、申請書をダウンロードし、必要事項を入力し申請を行ってください。

測量系CPDポイント申請書 (Excel)
ダウンロードはこちら

申請方法・注意事項はこちら

取得ポイント

取得できるポイントは、最大2ポイントです。

- ・ 実地観測分（ブース展示）：1ポイント
- ・ オンライン観測分（出展者動画コンテンツ）：1ポイント

※ポイントは「測量系CPDポイント」のみ申請可能です。

開催期間

2022年12月1日(木)～12月25日(日)
上記期間以降の申請は受付られませんのでご注意ください。

応募条件

下記条件を満たすことが必須になります。

- ・ 必須項目が入力された「測量系CPDポイント申請書 (Excel)」の提出
- ・ オンライン観測分：動画閲覧合計が40分以上、「技術的意見または感想」を200字以上、閲覧した各動画における問題に対する回答。
- ・ 実地観測分：ブース出展2者以上に關する「技術的意見または感想」を200字以上。

応募手順

- 手順 1 「測量系CPDポイント申請書 (Excel)」 「オンライン観測分申請シート (Excel)」 「実地観測分申請シート (Excel)」 に必要事項を入力してください。
- 手順 2 入力後、「測量系CPDポイント申請書 (Excel)」 のファイルをExcelデータのまま保存してください。
- 手順 3 地理空間情報フォーラム運営事務局へご提出ください。
※提出の際のメール件名は「【CPDポイント申請書】〇〇〇 (ご自身のお名前)」で必ずお送りください。

※提出の際のメール件名は「【CPDポイント申請書】〇〇〇 (ご自身のお名前)」で必ずお送りください。

応募票の入力について

申請方法・注意事項をご確認ください。
申請方法・注意事項 (リンク)

受取郵便物の発行について

- ・ 地理空間情報フォーラム事務局へ申請いただいた方のみ、受講証明書を発行いたします。
- ・ 受講証明書は、申請書に記載されたメールアドレスへPDFにてお送りいたします。
- ・ 発行は1月下旬以降に順次送付いたします。

注意事項

- ・ 動画視聴した申請者本人のみ申請可能です。本人以外の申請が発見した場合は申請は受け付けられません。
- ・ 申請書の入力内容の使い回しなどをし申請された場合には、申請は受け付けられません。
- ・ 測量系CPD協議会への学習履歴登録は、ご自身で行ってください。
- ・ 各動画により申請書の必要回答項目が異なりますので、ご注意ください。
- ・ G空間EXPO2022に掲載されているコンテンツを無断で複製、放送（有線・無線）、上映、公開、貸与などすることは法律で禁止されています。

測量系CPDポイントを申請する

地理空間情報フォーラム

■ 広報活動

1. 日本測量協会メールマガジン（2022年6月～12月）
2. 月刊「測量」広告（2022年10月号～12月号）
3. G空間EXPO/地理空間情報フォーラム2022 開催記者発表

1. 日本測量協会メールマガジン（6月～12月）

配信対象： 日本測量協会全会員宛

配信日： 2022.6.13 地理空間情報フォーラム2022出展者募集
2022.7.11 地理空間情報フォーラム2022出展者募集
2022.8.12 地理空間情報フォーラム2022出展者募集
2022.9.13 地理空間情報フォーラム2022出展者募集
2022.10.12 G空間EXPO開催告知
2022.11.10 G空間EXPO開催告知
2022.12.1 G空間EXPO開催告知
2022.12.12 G空間EXPOオンライン開催中告知

2. 月刊「測量」広告（2022年10月号～12月号：各約14,000部）

2022年10月号P.1、11月号表4



2022年12月号P.1から4ページ



3. 記者発表

投げ込み先：建設関係業界紙4社

（日刊建設工業新聞社/日刊建設通信新聞社/日本工業経済新聞社/建通新聞社）

実施日：2022年11月28日

4. Geoアクティビティコンテスト

主催：国土交通省 国土地理院

Geoアクティビティコンテスト

■ Geoアクティビティコンテスト概要

国土地理院は地理空間情報の利活用に関する魅力的な「取組」、新しい「アイデア」、独創的な「サービス」などを展示・発表で紹介し、来場者や参加者との交流を通じて、優良事例の育成・普及、新しいサービスの創出など地理空間情報の利活用促進を目的として「Geoアクティビティコンテスト」を主催している。本コンテストは平成24（2012）年から開始し、今回で11回目となった。

前回同様新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者が予め作成したプレゼンテーション動画等をもとに、産学官の有識者8名で構成された審査委員会が事前に審査する方法とした。

会場では13者が作品を展示するとともに、12月7日には、参加者の選択により、口頭発表又はプレゼンテーション動画の上映を実施するとともに、表彰式を実施した。また、プレゼンテーション動画は、12月13日から12月26日までオンデマンド配信した。

名 称 Geoアクティビティコンテスト

【会場開催】

開催期間 令和4年12月6日（火）～ 7日（水）

（6日：展示・プレゼンテーション動画の上映・表彰式／ 7日：展示）

会 場 東京都立産業貿易センター浜松町館 4階展示室中央

※口頭発表、プレゼンテーション動画の上映、表彰式についてはメインステージで実施

【オンライン開催】

開催期間 令和4年12月1日（木）～25日（日）

（1日～8日：予稿／ 9日～26日：予稿・プレゼンテーション動画）

会 場 GeoアクティビティコンテストWebサイト（<https://geocon.jp/>）

プレゼンテーション動画・展示内容

G空間情報を活用したアプリ、システム、機器、端末、サービス、技術、地図成果、研究成果、活用事例等を対象（既存のサービス、製品や、完成途中のものやアイデア段階のものも含む）

審査委員一覧

（順不同、敬称略）

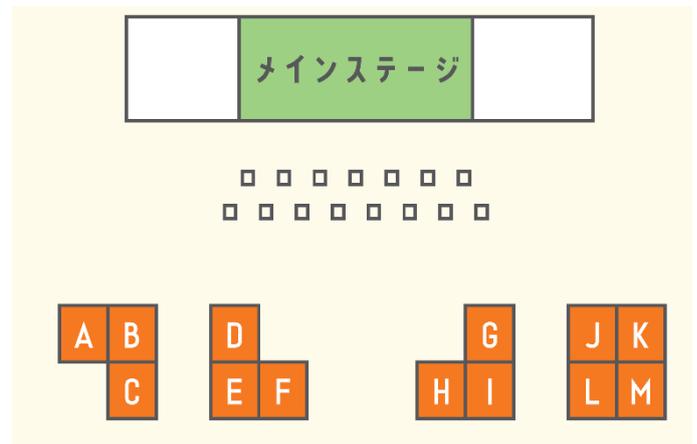
委員長	関根 智子	日本大学 文理学部地理学科教授
委員	石川 初	慶応義塾大学 環境情報学部教授
	伊藤 香織	東京理科大学 理工学部建築学科教授
	大場 亨	千葉県市川市 企画部DX担当理事
	片岡 義明	フリーランスライター
	坂下 哲也	一般財団法人 日本情報経済社会推進協会常務理事
	三橋 浩志	文部科学省初等中等教育局教科書調査官
	山本 佳世子	電気通信大学大学院 情報理工学研究科教授

（事務局 国土交通省 国土地理院企画部地理空間情報企画室）

Geoアクティビティコンテスト

■ 会場開催

1. 展示小間及び出展者



出展者一覧

Geo^{GIS EXPO 2022} アクティビティ
コンテスト

- A 玉川大学 Makers Floor Digital Creative Project**
3D地形の教育普及を加速させるナビ・方法論と実践モデルの開発
- B 齋藤 仁志**
DP Note ー防災に関する考察ブロッガー
災害データ可視化&防災図解による情報発信
- C 地理×女子(お茶の水女子大学)**
前田 侑里香、池本 明日香
メタ巡検 ーメタバス上で行う新しいフィールドワークの提案ー
- D 宮崎県立 佐土原高等学校**
防災アプリ「SHS災害.info」の開発 ー宮崎地方気象台と共にー
- E 全国Q地図管理者**
各種地形図・地図情報の統合閲覧サイト「全国Q地図」
- F 日本大学経済学部(田中圭ゼミナール)**
松本 萌花、梅津 高龍、蛭沼 祐貴、八巻 優太
iPhoneで3D地図を作ってみた!
- G 合同会社 World Arc Lab**
小比賀 亮仁
VRを使った洪水避難訓練と行動データの分析システム
- H 地理教材共有化の会**
地理教材共有化プロジェクト ー地理総合必修化に向けたアシストー
- I 学習院女子高等科**
小林 明日佳
地球の不思議を探しに行こう「Terra Hunting」略してテラはん
- J 一般社団法人GIS支援センター**
地理院地図でDX_進化した道路占用オンライン協議・申請
- K 秋山調査設計**
国土地理院数値地図解析に基づくSCOPEによる表層崩壊の予測
- L 一般社団法人アグリジオ**
金澤 隆康
地理院地図を用いた公共系施設管理プラットフォーム創造への挑戦
- M 東京カートグラフィック株式会社**
地図地理エンタメプロデューサー 村松 和善
HMGーハザードマップゲームー

Geoアクティビティコンテスト

2. 展示の様子

A

タイトル：3D地形の教育普及を加速
させるナビ・方法論と実践モデルの開発
出展者名：玉川大学 Makers Floor
Digital Creative Project



B

タイトル：DP Note—防災に関する考察ブログ—
災害データ可視化&防災図解による
情報発信
出展者名：齋藤 仁志



C

タイトル：メタ巡検 —メタバス上で行う新しい
フィールドワークの提案—
出展者名：地理×女子（お茶の水女子大学）
前田 侑里香、池本明日香



D

タイトル：防災アプリ「SHS災害.info」の開発
～宮崎地方気象台と共に～
出展者名：宮崎県立 佐土原高等学校



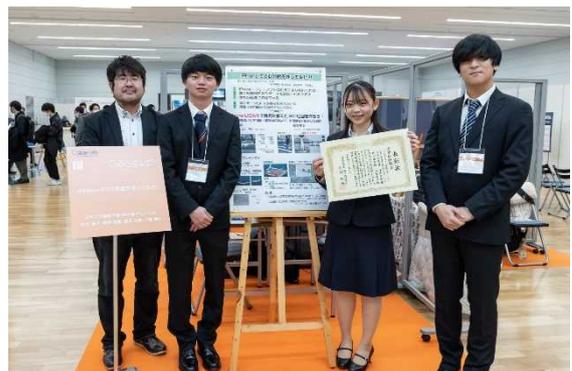
E

タイトル：各種地形図・地図情報の 統合閲覧
サイト「全国Q地図」
出展者名：全国Q地図管理者



F

タイトル：iPhoneで3D地図を作ってみた！
出展者名：日本大学経済学部（田中圭ゼミ
ナール）松本萌花、梅津高龍、蛭
沼祐貴、八巻優太



Geoアクティビティコンテスト

G

タイトル：VRを使った洪水避難訓練と行動データの分析システム

出展者名：合同会社 World Arc Lab
小比賀 亮仁



H

タイトル：地理教材共有化プロジェクト
～地理総合必修化に向けたアシスト～

出展者名：地理教材共有化の会



I

タイトル：地球の不思議を探しに行こう
「Terra Hunting」略してテラはん

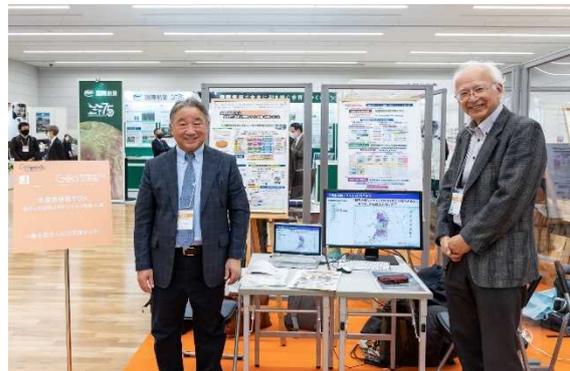
出展者名：学習院女子高等科 小林 明日佳



J

タイトル：地理院地図でDX_進化した道路占用
オンライン協議・申請

出展者名：一般社団法人 GIS支援センター



K

タイトル：国土地理院数値地図解析に基づく
SCOPEによる表層崩壊の予測

出展者名：秋山調査設計



L

タイトル：地理院地図を用いた公共系施設管理
プラットフォーム
創造への挑戦—

出展者名：一般社団法人 アグリジオ 金澤 隆康



Geoアクティビティコンテスト

M

タイトル：HMG～ハザードマップゲーム～
出展者名：東京カートグラフィック株式会社
地図地理エンタメプロデューサー
村松 和善



会場入口側より撮影



会場出口側より撮影

3. プレゼンテーション



主催者挨拶



プレゼンテーションの様子

Geoアクティビティコンテスト

4. 表彰式等

出展された作品について、事前に開催された審査委員会にて審査を行い、優秀な作品についてG空間EXPO内で表彰した。

日時：令和4年12月7日（水） 16:00～16:50

場所：メインステージ

Geoアクティビティコンテスト 2022年受賞作品

(敬称略)

最優秀賞	防災アプリ「SHS災害.info」の開発 ～宮崎地方気象台と共に～	宮崎県立 佐土原高等学校
国土地理院データ活用賞	各種地形図・地図情報の 統合閲覧サイト「全国Q地図」	全国Q地図管理者
測量新技術賞	iPhoneで3D地図を作ってみた！	日本大学経済学部（田中圭ゼミナール）松本萌花、梅津高龍、蛭沼祐貴、八巻優太
地域貢献賞	地理院地図でDX_進化した道路占有オンライン協議・申請	一般社団法人 GIS支援センター
防災減災賞	DP Note - 防災に関する考察ブログ - 災害データ可視化&防災図解による情報発信	齋藤 仁志
	VRを使った洪水避難訓練と行動データの分析システム	合同会社 World Arc Lab 小比賀 亮仁
地理教育賞	地理教材共有化プロジェクト ～地理総合必修化に向けたアシスト～	地理教材共有化の会
クリエイティブ賞	HMG～ハザードマップゲーム～	東京カートグラフィック株式会社 地図地理エンタメプロデューサー 村松 和善



主催者挨拶



最優秀賞



審査委員長の講評



出展者のみなさん

Geoアクティビティコンテスト

■ オンライン開催 (総アクセス数 : 9,051)

1. Webページ (PC版)

TOPページ

The screenshot shows the homepage of the Geo Activity Contest 2022. At the top, there is a navigation bar with the event logo and menu items like '開催概要', 'ごあいさつ', '出展者・作品', '会場へのアクセス', and 'お問い合わせ'. The main content area features a large banner with the event title and dates: '2022年12月6日(水)・7日(木)10:00~11:00' and '2022年12月1日(水)~25日(日)'. Below the banner, there is a photo of the award ceremony and a list of participating organizations. At the bottom, there is a map of the venue and contact information for the Geomatics Information Authority of Japan.

ごあいさつページ

The screenshot shows the 'ごあいさつ' (Greetings) page. It features a large orange header with the event logo and a navigation bar. The main content area includes a 'Greetings' section with the text 'ごあいさつ' and a photo of the Geomatics Information Authority of Japan President, Takamura Hiroyuki. Below the photo, there is a message from the president welcoming participants and announcing the online format. The message states that this is the 11th annual event, with a focus on safety due to the COVID-19 pandemic. It also mentions that 13 entries were received and all were selected for the award ceremony. The president expresses hope that participants will find new uses for geomatics information through the contest. At the bottom, there is a logo for the Geomatics Information Authority of Japan and a footer with contact information and a copyright notice.

Geoアクティビティコンテスト

出展者・作品ページ

各出展者のページ (例: 宮崎県立 佐土原高等学校)

Geoアクティビティコンテスト

会場アクセスページ

会場へのアクセス

東京都立産業貿易センター 浜松町館

〒105-7501
東京都港区海岸1丁目7-1 東京都立産業貿易センター浜松町館 4F展示室

電車のアクセス

- JR山手線・京浜東北線 浜松町駅（北口） 徒歩約5分
- 東京モノレール 浜松町駅 徒歩約5分
- 都営浅草線・大江戸線 大門駅（B2出口） 徒歩約7分
- ゆりかもめ 竹芝駅 徒歩約2分

車のアクセス

- 首都高速 都心環状線「芝公園IC」「汐留IC」から約10分
- 羽田線「芝浦IC」から約10分

お問い合わせページ

お問い合わせ

Geoアクティビティコンテスト事務局

国土交通省 国土地理院 企画部地理空間情報企画室内

メールアドレス: gsi-g-kukan8@gxb.mlit.go.jp

個人情報保護 | プライバシーポリシー | リンク・利用規約 | ウェブアクセシビリティの取組み

Geoアクティビティコンテスト

2. Webページ（スマートフォン版）

TOPページ

会場開催は終了しました

2022年12月6日(火)・7日(水)
10:00~17:00

会場

東京部立産業貿易センター浜松町館4F
(東京ポートシティ竹芝オフィスタワー)

入場無料

オンライン開催は終了しました

2022年12月1日(木)~25日(日)

GEOアクティビティコンテスト表彰式 (12月7日開催)

出展者一覧

タイトル	出展者名
A 3D地形の教育普及を 加速させるナビ・方 法論と 実践モデルの開発	玉川大学 Makers Floor Digital Creative Project
B DP Note ー防災に関 する考察ブログー 災害データ可視化と 防災理解による情報 発信	藤藤 仁志
C メタ認識 ーメタバース上で行 う新しいフィールド ワークの提案ー	地理×女子(お茶の 水女子大学) 前田 悠空彦、池本 明日香
D 防災アプリ「SOS災 害.info」の開発 ーXGIS地方気象台と 共にー	XGIS 徳島 徳島高 等学校

E	各種地形図・地図情 報の統合閲覧リイト 「全開の地図」	全開の地図管理者
F	iPhoneで3D地図を作 ってみた！	日本大学経済学部 (国中生ゼミナール) 松本 萌花、梅津 高健、蛭沼 祐貴、 八巻 優太
G	VRを使った洪水避難 訓練と行動データの 分析システム	合同会社 World Arc Lab 小出誠 亮仁
H	地理教材共有化プロ ジェクト ー地理総合必修化に 向けたアシストー	地理教材共有化の 会
I	地球の不思議を探し に行こう 「Terra Hunting」 驚 してテラはん	学習院女子高等科 小林 明日佳
J	地理院地図でVR進化 した道路活用オンラ イン協議・申請	一般社団法人G I S支援センター
K	国土院院地図の地理 解析に基づく S.C.O.P.Eによる表 層構造の予測	秋山調査設計
L	地理院地図を用いた 公共施設管理プラ ットフォーム 創造への挑戦	一般社団法人 アグリジオ 金澤 隆康
M	AR ーハザードマップブ ームー	東京カートグラ フィック株式会社 地図地理エンタメ プロデューサー 村松 和志

会場レイアウト

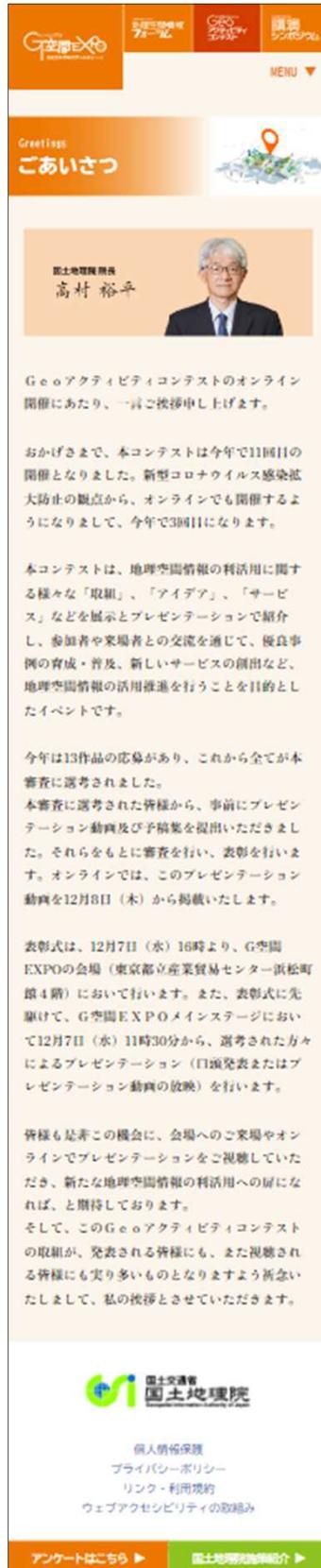
国土交通省
国土院

個人情報保護
プライバシーポリシー
リンク・利用規約
ウェブアクセシビリティの取組み

© Geo activity contest 2022 special

Geoアクティビティコンテスト

ごあいさつページ



国土交通省
国土地理院

Geoアクティビティコンテスト

開催のお知らせ

MENU

Greeting ごあいさつ



国土地理院 院長
高村 裕平

Geoアクティビティコンテストのオンライン開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

おかげさまで、本コンテストは今年で11回目の開催となりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインでも開催するようになりまして、今年で3回目になります。

本コンテストは、地理空間情報の利活用に関する様々な「取組」、「アイデア」、「サービス」などを展示とプレゼンテーションで紹介し、参加者や実業者との交流を通じて、優良事例の育成・普及、新しいサービスの創出など、地理空間情報の活用推進を行うことを目的としたイベントです。

今年は13作品の応募があり、これから全てが本審査に選考されました。

本審査に選考された皆様から、事前にプレゼンテーション動画及び予稿集を提出いただきました。それらをもとに審査を行い、表彰を行います。オンラインでは、このプレゼンテーション動画を12月8日（木）から掲載いたします。

表彰式は、12月7日（水）16時より、G空間EXPOの会場（東京都立産業貿易センター浜松町館4階）において行います。また、表彰式に先駆けて、G空間EXPOメインステージにおいて12月7日（水）11時30分から、選考された方々によるプレゼンテーション（口頭発表またはプレゼンテーション動画の放映）を行います。

皆様も是非この機会に、会場へご来場やオンラインでプレゼンテーションをご視聴していただき、新たな地理空間情報の利活用への扉になれば、と期待しております。

そして、このGeoアクティビティコンテストの取組が、発表される皆様にも、また視聴される皆様にも実り多いものとなりますよう祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

国土交通省
国土地理院

個人情報保護
プライバシーポリシー
リンク・利用規約
ウェブアクセシビリティの取組み

アンケートはこちら ▶

国土地理院の紹介 ▶

Geoアクティビティコンテスト

出展者・作品ページ

出展者・作品

A 加地形の教育普及を加速させるための、方法論と実践モデルの開発

玉川大学
Maker Floor Digital Creative Project

続きを見る ▶

B DP-Net
— 防災に関するWebブラウザ災害データ可視化・防災記録による情報発信

黒田 仁志

防災減災賞

続きを見る ▶

C メタ記録
— メタレベル上で付随したフィールドワークの記録

記録・電子記録の電子記録
前田 橋里香、池本 明日香

続きを見る ▶

D 防災アプリ「GIS災害-infu」の開発
— 防災関係者との協働

西崎真立 佐土原高等学校

（最優秀賞）

続きを見る ▶

E 自製地形図・地図情報の統合管理サイト「全国地形図」

国土地理院

国土地理院データ提供賞

続きを見る ▶

F iPhoneで
楽地図を作ってみた！

日本大学経済学部 地理情報センター
松本 尚花、地津 高穂、
塚田 祐真、八巻 優太

測量新技術賞

続きを見る ▶

G 雨を覚った洪水避難経路と
行動データの分析システム

内閣府 World Arc Lab
小辻真 亮仁

防災減災賞

続きを見る ▶

H 地理教材共有化
プロジェクト
— 地理教材共有化に向けたプラットフォーム

地理教材共有化の会

地理教育賞

続きを見る ▶

I 地球の不思議を
探しに行こう
「Terra Hunting」編んで
テラハン

学園女子編み部
小林 明日佳

続きを見る ▶

J 地理院地図で取
寄せした国語点検オンライン
協議・申請

一般社団法人 GIS支援センター

地域貢献賞

続きを見る ▶

K 国土地理院経緯度座標解析に基づき
500Mによる表示標準の予測

秋山真由設計

続きを見る ▶

L 地理院地図を用いた公共施設
経営プラットフォーム
創出への挑戦

一般社団法人 アグリシア
池澤 隆康

続きを見る ▶

M ハザードマップゲーム

国土地理院プラットフォーム構築
地理院エンタメプロジェクト
村松 和善

クリエイティブ賞

続きを見る ▶

国土地理院
個人参加賞
アライバシー・ブリー
リンク・利用規約
ウェブアクセシビリティの取組

ダウンロードはこちら ▶ 個人参加賞の取組 ▶

Geoアクティビティコンテスト

各出展者のページ（例：宮崎県立 佐土原高等学校）

The screenshot shows a vertical webpage layout. At the top, there is a header with logos for 'Geo EXPO 2019', 'Geo EXPO 2019', and 'Geo EXPO 2019'. Below the header, the main content area has an orange background with the text '防災アプリ 「SHS災害.info」の開発 ~宮崎地方気象台と共に~' and '宮崎県立 佐土原高等学校'. A red starburst graphic contains the text '(最優秀賞)'. Below this is a 'キーワード' (Keywords) section with the text '防災アプリ、防災学習、災害情報、避難場所情報'. The main content area features a large image of the 'SHS 災害.info' app interface, with the text 'SHS災害.info' and '宮崎県立 佐土原高等学校 防災アプリ'. Below the app image is a 'PDFを見る' (View PDF) button. At the bottom of the page, there is a footer with the logo of '国土交通省 国土地理院' (Ministry of Land, Infrastructure, and Transport, National Institute of Land and Information Management) and the text '個人情報保護 プライバシーポリシー リンク・利用規約 ウェブアクセシビリティの取組み'. At the very bottom, there are two buttons: 'アンケートはこちら' (Survey here) and '国土地理院紹介' (Introduction to National Institute of Land and Information Management).

会場アクセスページ

Geoアクティビティコンテスト

会場

会場へのアクセス

東京都立産業貿易センター 浜松町館

住所

〒105 7501
東京都港区海岸1丁目7-1 東京都立産業貿易センター浜松町館 4F展示室

最寄り駅

- JR山手線・京浜東北線 浜松町駅（北口） 徒歩約5分
- 東京モノレール 浜松町駅 徒歩約5分
- 都営浅草線・大江戸線 大門駅（B2出口） 徒歩約7分
- ゆりかもめ 竹芝駅 徒歩約2分

車で

- 首都高速 都心環状線「芝公園IC」「汐留IC」から約10分
- 羽田線「芝浦IC」から約10分

国土交通省 国土院

個人情報保護
プライバシーポリシー
リンク・利用規約
ウェブアクセシビリティの取組み

アンケートはこちら ▶ 国土院の紹介 ▶

Geoアクティビティコンテスト

お問い合わせページ



The screenshot shows a webpage for the Geo Activity Contest. At the top, there is a navigation bar with logos for 'Geo空間EXO', 'Geo空間EXO 公式ホームページ', 'Geo空間EXO', and 'Geo空間EXO オンラインコンテスト'. A 'MENU' dropdown arrow is on the right. Below the navigation bar is a 'Contact Us' section with the heading 'お問い合わせ' and an illustration of a globe with a location pin. The main content area features the title 'Geoアクティビティコンテスト 事務局' and the address '国土交通省 国土地理院 企画部地理空間情報企画室内'. A white box contains the email address 'gsi-g-kukan0@gxb.mlit.go.jp'. Below this, there is a disclaimer in Japanese: '※お問い合わせ内容によっては、数日以上のお時間をいただく場合がございます。 ※回答の時間指定はお受けできませんので、あらかじめご了承ください。' At the bottom, there is a footer with the GSI logo and text: '国土交通省 国土地理院', '個人情報保護 プライバシーポリシー リンク・利用規約 ウェブアクセシビリティの取組み'. Two buttons are at the very bottom: 'アンケートはこちら ▶' and '国土地理院紹介 ▶'.

Geoアクティビティコンテスト

■ 広報活動

1. 報道発表

- ・「Geoアクティビティコンテスト」作品募集（2022-04-22）
- ・G空間で創るデジタル社会 ～G空間EXPO 2022を12月に開催～（2022-9-16）
- ・G空間EXPO 2022を12月6日・7日に開催します
～今年のテーマは「G空間で創るデジタル社会」へ～（2022-11-7）

2. 広報誌・雑誌等

- ・国土地理院「測量と地理空間情報関連メールニュース」
第75号（2022-05-24）
第77号（2022-09-16）
第78号（2022-11-25）
- ・国土地理院広報（<https://www.gsi.go.jp/kohokocho/kohoshi.html>）
647号（2022年5月発行）
653号（2022年11月発行）
655号（2023年1月発行）
- ・月刊「測量」（公益社団法人 日本測量協会 発行）
2022年6月号
2023年2月号
- ・GIS NEXT（株式会社 ネクストパブリッシング 発行）
81号（2022年10月発行）
82号（2023年1月発行）

3. SNS

- Twitterにて、適宜つぶやきを投稿。
- ・Geoアクティビティコンテストアカウント：55投稿
 - ・G空間EXPOアカウント：11投稿

4. 地図と測量の科学館

- ・常設展示室にパネル展示
- ・ポスター掲示



The image is a promotional poster for the Geo EXPO 2022 Activity Contest. It features the title 'Geo EXPO 2022 アクティビティコンテスト' in large, stylized letters. Below the title, it says '作品募集' (Work Submission) and '2022年6月20日(月) 17時 必着' (Deadline: June 20, 2022, 17:00). The poster includes a globe icon and the text '新しい時代に新しいこと、始めてみよう。' (In this new era, let's start something new). At the bottom, it provides the event date '開催日 2022年12月6日・7日' and location 'In 東京都立産業貿易センター浜松町館'. There are also social media icons for Twitter, YouTube, and Facebook, along with a QR code.

Geoアクティビティコンテスト
作品募集のチラシ

5. 講演・シンポジウム

主催：一般財団法人 宇宙システム開発利用推進機構

実施概要

■ G空間EXPO2022講演・シンポジウム

名 称 G空間EXPO2022 講演・シンポジウム

開催期間(公開期間) 2022年12月1日(木)～12月25日(日)

会 場 G空間EXPO2021WEBサイト内

対 象 生徒、社会人、専門家

料 金 無料

昨年2021年のG空間EXPOは、東京都立産業貿易センター浜松町館会議室での開催とオンラインでのハイブリッド開催でありましたが、2022年は2020年同様のオンラインのみでの開催となりました。

本年も従来のG空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の発信に加え、昨年同様コロナ禍におけるG空間情報の活用事例や、ポストコロナを見据えたG空間情報の展開など、この時期ならではの講演が昨年に引き続き行われました。

今回のオンラインのみの開催に際しては、昨年度の現地開催団体が2団体にとどまったこと、コロナ流行の終息が見えないことを勘案し、決定しました。現地開催が無いことについて、様々なご意見をいただいておりますが、ここ2年間のコロナ禍でのオンライン講演会の普及により、現地に集まって講演を聴取するスタイル以外も受け入れられたこと、地方からも気軽に参加できるオンラインの利点により、ある程度の理解は得られているものと考えております。

なお、来年度の開催もオンラインのみで進める予定です。

プログラム一覧

	主催団体※	講演・シンポジウム名
①	国土地理院	第14回地理院地図パートナーネットワーク会議
②	(公社) 日本地理学会 後援：マイクロジオデータ研究会	地理学の社会実装～ビッグデータ・AI・マイクロジオデータの最前線
③	(一社) 日本写真測量学会 (一社) 日本リモートセンシング学会 (共催：(一社) 地理情報システム学会)	自然資本・生物多様性に対する地球観測衛星の貢献
④	G空間情報センター (一社) 社会基盤情報流通推進協議会	G空間情報センター シンポジウム
⑤	東京大学 空間情報科学研究センター	CSIS Symposium 2022 「Livable Cities (住みやすい都市)：空間情報科学からのアプローチ」
⑥	内閣府宇宙開発戦略推進事務局 /準天頂衛星システムサービス株式会社	みちびき(準天頂衛星システム)ウェビナー
⑦	一般財団法人 宇宙システム開発利用推進機構	衛星測位シンポジウム2022 SDGs達成と地球温暖化影響緩和に貢献する衛星測位応用事例講演会
⑧	地図みらいコンソーシアム	地理教育コーナー ～G空間技術で楽しく学ぶ地理・地形・歴史～
⑨	一般社団法人 地理情報システム学会	基礎自治体におけるベースレジストリとGIS

※申し込み順

実施報告①

■ 第14回地理院地図パートナーネットワーク会議 実施者：国土地理院

■ 会議の概要

地理院地図パートナーネットワーク (<https://maps.gsi.go.jp/pn/>) は、地理空間情報活用のオープンイノベーションを目指す情報共有・意見交換の場であり、地理院タイルをはじめとする地理空間情報の活用推進のため、国土地理院、受託開発者及びツール提供者がこれに参加しています。令和4年8月現在、106の受託開発者と、74のツール提供者が登録されています。

地理院地図パートナーネットワーク会議は、地理院地図パートナーの情報共有・意見交換の場の1つとして平成26年から開催しており、今回で14回目になります。

■ 第14回会議の概要

第14回会議は、G空間EXPO2022のシンポジウムの1つとして、令和4年12月6日（火）に開催しました。今回も、新型コロナウイルス感染症に係る情勢も勘案し、G空間EXPO2022会場及びオンラインを併用する方式としました。

午前の部は、基調講演として一般財団法人 日本デジタル道路地図協会 鎌田(かまだ)高造(こうぞう)理事長より「DRM－PF（アジャイルな道路デジタルツイン）」について、講演していただきました。多くの方から、講演内容について「参考になった」等、好意的な感想をいただきました。

午後の部は、「地理院地図に関する意見交換」をテーマとし、発表及び意見交換を実施しました。この中では、国土地理院から地理院地図の今後の展開や最適化ベクトルタイル、点群データについての、情報普及課における最近の取り組みについての発表を行いました。

また、意見交換では、会場及びオンラインの参加者から多くの質問があり、活発な意見交換が行われました。

■ 動画配信

当日の会議の様子は、YouTubeの地理院地図パートナーネットワーク会議チャンネルから視聴することができます。（地理院地図パートナーネットワークのウェブサイトからアクセスできます。）



永山地理空間情報部長による開会挨拶



基調講演の様子



パートナーネットワーク会議の様子

（執筆者：国土地理院地理空間情報部情報普及課）

実施報告②

シンポジウム:地理学の社会実装～ビッグデータ・AI・マイクロジオデータの最前線～

主催:公益社団法人 日本地理学会・後援:マイクロジオデータ研究会

開催趣旨

文系・理系の枠に留まらない複合領域である地理学では、地理空間情報を活用した社会実装が進められている。その背景には、技術革新や時々刻々と膨大な地理空間情報が生成・蓄積・共有されるというビッグデータ・AI時代の情報基盤がある。新たな時代を迎え、新しいデータも出現した。本シンポジウムでは、新しい地理空間情報の出現当初から「パイオニア」としてそのデータの可能性を見出した4名の講演者から、社会課題の解決に向けた取組みについて最先端の事例を紹介頂き、研究・ビジネス・人材育成・自治体との連携というそれぞれの立場から「地理学の社会実装」に向けて何が必要かを議論した。

実施概要

2022年12月19日10時～12時
(完全オンライン実施)

広報活動

主催・共催組織、および講演者または講演者の所属会社のHP、
メーリングリストおよびSNSによるシンポジウム告知活動を実施。
G空間EXPO2022講演シンポジウム 主催:公益社団法人日本地理学会
後援:マイクロジオデータ研究会

参加者数・視聴数

オンタイムの参加者:約200名
(Zoom会場:約90名
YouTube Live会場:約110名)
オンデマンド配信動画の視聴回数:
約260回(公開期間～2022年12月25日)

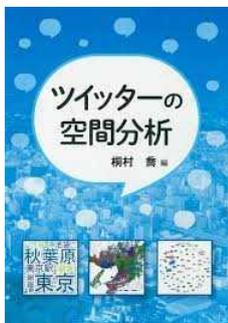
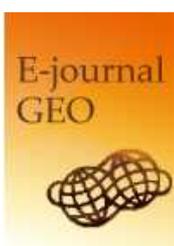


図1 講演者の出版物および所属組織のロゴ

機関紙へのシンポジウム報告の掲載



本シンポジウムでの講演や総合
討論の概要については、「シン
ポジウム報告」として、日本地理
学会が発行するオンライン
ジャーナル:E-journal GEO
への掲載が決定している。
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejgeo-char/ja>

2022 **12.19**日 10:00～12:00
オンライン開催 (Zoom/YouTube配信)
※12月20日～25日はオンデマンド配信予定

参加
無料

講演プログラム

趣旨説明	秋山 千亜紀 氏	日本地理学会企画専門委員/大東建託株式会社
講演①	桐村 喬 氏	皇學館大学文学部 准教授 「ツイッターデータの地理学」
講演②	柴山 和久 氏	株式会社Agoop 代表取締役社長 兼 CEO 順天堂大学 大学院医学研究科データサイエンス 客員教授 ソフトバンク株式会社 ビッグデータ戦略室 室長 最新人流データ分析の紹介 ～ニューノーマル時代に向けて～
講演③	宮崎 浩之 氏	株式会社GLODAL 代表取締役 東京大学空間情報科学センター 特任助教 「宇宙利用×AIが切り拓くG空間データ人材育成の国際展開」
講演④	秋山 祐樹 氏	東京都市大学 建築都市デザイン学部 准教授 「マイクロジオデータ×AIが拓く地理学の社会実装」

総合討論 司会 一ノ瀬 俊明 氏 日本地理学会企画専門委員/国立環境研究所

【参加申込方法】 下記の申込フォームよりお申込み下さい。お申込み頂いた方に事前に Zoom 及び YouTube の情報をメールにてお知らせいたします。

申込フォームURL: <https://forms.gle/mggYMvzL5K3UjAHBx9>

【参加申込締切/定員】 2022年12月18日(日)/先着500名



地理空間情報の可能性をいち早く見出した
「パイオニア」が集結！/既存の枠を超え
地理学のさらなる飛躍に向けて議論する



図2 シンポジウム告知ポスター(日本地理学会HPに掲載)
<https://www.ajg.or.jp/20221201/15611/>

作成者:秋山千亜紀(日本地理学会企画専門委員会委員・シンポジウムオーガナイザー)

実施報告③

■【講演：自然資本・生物多様性に対する地球観測衛星の貢献】

実施者：日本写真測量学会、日本リモートセンシング学会（以上主催）、地理情報システム学会（共催）

開催日時：2022年12月1日（木）～12月25日（日） オンデマンド配信（測量CPD対象）

<主旨>

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）やESG投資への社会的な関心が高まる中、近年、自然資本・生物多様性が注目を集めています。文部科学省の地球観測推進部会においても、SDGsの各評価指標やポストSDGsに向けた目標設定に対する地球観測データの利活用の推進が示されています。

現在のSDGsの評価指標について、地球観測データに基づく評価指標の設定は限定的であり、今後のSDGsの検証等において、観測データの一層の活用が期待されています。また、このような背景を受け、「第9期地球観測推進部会」では、自然資本・生物多様性、気候サービス・気候レジリエンスなどが重点課題として設定され、検討が深められています。

本シンポジウムでは、「自然資本・生物多様性に対する地球観測衛星の貢献」をテーマに、この分野における衛星リモートセンシングへの期待や利用事例に関する理解を深め、将来を展望する機会としたいと思います。

<プログラム> -----

- 0 開会のご挨拶／赤松幸生（一般社団法人日本写真測量学会 副会長）
- 1 「第9期地球観測推進部会中間とりまとめについて～SDGs・GXに向けたデータバリューチェーンの視点から～」
／服部正（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構）
- 2 「「自然資本配慮経営や産業創出に向けた基盤整備」に係る環境省の取組、今後の展望」
／浜島直子（環境省自然環境局）
- 3 「TCFD、TNFDとCDPの取り組み」／榎堀都（CDP Worldwide-Japan）
- 4 「DIASにおける生態系モニタリングと地球観測衛星の期待」／安川雅紀（東京大学地球観測データ統融合連携研究機構）
- 5 「生態系保全に関する日本リモートセンシング学会の取り組み～サンゴ礁のリモートセンシングを例に～」
／山野博哉（国立研究開発法人国立環境研究所）
- 6 「サステナブルファイナンスへの空間情報技術の活用の可能性」／大谷智一（みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社）
- 7 「持続可能な調達に向けた衛星システムによる原産地のリスク管理 ～民間企業の取り組み事例～」
／前田佳子（国際航業株式会社）

<感想>

今年度は、「自然資本・生物多様性に対する地球観測衛星の貢献」というテーマでシンポジウムを実施しました。近年、関心を集めているSDGs関連における、衛星リモートセンシングへの期待や利用事例をご紹介しました。これまでシンポジウムに参加していなかった方も含め、多数の方に興味を持って聴講頂くことができました。アンケート結果からも、「ニュースなどではよく聞くようになったキーワード（生物多様性、SDGsなど）について業務で関わることは少なかったが今回の講演で身近に感じられた」「地球に起こっていることを衛星システム等で視覚による現状把握ができることに驚いた」などの意見を多く頂き、好評であった状況が伺えました。全体の内容として良い評価が得られたと考えています。

昨年に続いてオンデマンド配信で開催しましたが、関係各位の多大なご協力もあり、充実したプログラムにできました。オンデマンド配信での開催に加え、質疑応答を含むハイブリッド形式を望む意見も頂戴しておりますので、次年度以降も方法を検討しながら開催を目指して邁進して参りたいと考えています。

（日本写真測量学会 事務局 岩下典子）

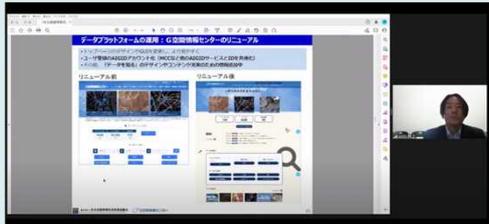
実施報告④

■【G空間情報センター シンポジウム ～発災時、G空間情報でできること～】

実施者：G空間情報センター

12月9日（金）G空間EXPO2022におきまして、「G空間情報センター シンポジウム ～発災時、G空間情報でできること～」を開催いたしました。今回もオンライン開催となりましたが、200名を超える多くの皆様にご視聴いただきました。誠にありがとうございました。

●G空間情報センターのこれまでの歩み



副センター長 井上より、他機関・データプラットフォームとの連携拡充の状況等の直近1年間の主な取り組みをご紹介しました。また、今後の取り組みとして予定している、当センターでの法務省の登記簿備付地図データ（XML）公開に伴う加工データの提供等についてお話ししました。

●基調講演：全国ハザードマップ～「GISで災害から命を救う」ための課題とは～

NHK浅野様・大石様より、昨年6月放送のNHK番組のWEBコンテンツとして制作された「全国ハザードマップ」について、作成の経緯や今後の展望についてご講演いただきました。データの収集や整形のご苦労、サービス公開後の反響について、直接関わられたご担当者ならではのエピソードをお話しいただきました。



●講演：災害情報分野におけるG空間情報を用いた取り組み



社会基盤情報流通推進協議会 大伴より、災害時における車両の通行実績や航空測量会社による空撮写真を掲載・公開するリアルタイム災害情報サービスについてご紹介しました。また内閣府遊佐様からは、大規模災害時に被災情報等のあらゆる災害情報を集約・地図化・共有して自治体等の災害対応を支援するISUTの取り組みをご紹介いただきました。

●座談会：発災時、G空間情報でできること

NHK捧様・浅野様・大石様、東京理科大学二瓶様、AIGID関本により、前半の各ご講演を踏まえ「発災時、G空間情報でできること」をテーマに座談会形式でお話しいただきました。様々な分野のG空間情報のハブとしての当センターの役割や産官学の機関間の連携、各種取り組みに関する情報発信の方法等について、貴重なお話を伺うことができました。



G空間情報センター： <https://www.geospatial.jp/>

実施報告⑤

CSIS Symposium 2022

Livable Cities(住みやすい都市):

空間情報科学からのアプローチ

日時: 令和4年12月9日(金) 9:00-12:05

開催方式: オンライン

主催: 東京大学 空間情報科学研究センター

後援: 地理情報システム学会



The University of Tokyo

■ 開催趣旨

CSISシンポジウムは、当研究センターおよび国内外で行われている空間情報科学に係わる多くの研究事例を通じて、今後の空間情報科学研究のあり方について広く論じることを目的としています。今年度のテーマは「Livable Cities(住みやすい都市)」です。Livable Citiesとは、住民が心豊かに、快適に、安心して住み続けることのできる都市を表す概念です。経済成長や利便性のみで都市を評価するのではなく、そこに生活する人々の生活の質(QOL)、暮らしやすさから都市のあるべき姿を考えようというこの概念は、近年、都市計画の分野で重要度を増しています。本シンポジウムでは、安心安全、地域環境、健康など、都市の住みやすさ(Livability)のさまざまな側面に空間情報科学の視点からアプローチした研究の取り組みを通じて、これからの都市のあり方、そのための空間情報科学の貢献について考えます。

■ プログラム

- ・ 開会の挨拶 (CSIS センター長 瀬崎薫 教授)
- ・ 開催の主旨 (CSIS 山田育穂 教授)
- ・ 空間情報技術を用いた防災・減災対策によるLivable Citiesの実現
(電気通信大学 山本佳世子 教授)
- ・ 地理空間ビッグデータ時代の犯罪分析 (筑波大学 雨宮護 准教授)
- ・ 空間情報を活用した都市における気候変動緩和・適応策 (CSIS 吉田崇紘 助教)
- ・ 空間情報を用いた街路景観における印象とその可視化の試み
(信州大学 西尾尚子 助教)
- ・ 空間情報を活用した人々の買い物「不便」の解明
(京都府立大学 関口達也 准教授)
- ・ 身体活動を促すまちづくり (東京大学 樋野公宏 准教授)
- ・ 閉会の挨拶 (CSIS 副センター長 関本義秀 教授)

■ 報告

本シンポジウムではLivable Citiesをテーマに6名の方々にご発表いただき、様々なリスクへの備えからより快適な暮らしに向けた取り組みまで、幅広い視点で住みやすさを考える機会となりました。発表者の皆様、100名を超える参加者の皆様に、心より御礼申し上げます。

(報告者: 東京大学空間情報科学研究センター・山田育穂)

実施報告⑥

■みちびき(準天頂衛星システム)ウェビナー

～みちびき利活用最前線 in G空間EXPO 2022～

実施者：内閣府宇宙開発戦略推進事務局

G空間EXPO「みちびき」の講演会は節目となる10回目の開催となりました。3年連続でのウェビナー開催となった今回は、「みちびき」の多岐に亘る活用事例紹介として、前年度公募実証の採択事例から4件、最新の好事例から4件(うち製品化事例3件)の講演を行いました。

農業や乗用車などの自動運転の他、情報化施工への応用、水道メーターの位置情報管理、自転車配達員の配達経路管理、災害通報のサイネージへの活用、といった、新たな視点をもった事例も紹介されました。主催者側からは「みちびき」の最新情報も報告しました。



開会挨拶および講演

「準天頂衛星システム「みちびき」の今後のサービス展開について」

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 参事官/準天頂衛星システム戦略室長 上野麻子

講演

「みちびき利用拡大活動の最新動向」

NECソリューションイノベータ 主席プロフェッショナル 神藤英俊

「情報化施工でのみちびき補正データ利用の可能性と実験結果の報告」

東京海洋大学 学術研究院教授 久保信明 氏

「みちびき×ブロックチェーンを用いた配達員保険システム」

株式会社シーエーシー ブロックチェーン推進グループ グループ長 藪下智弘 氏

「みちびき対応cm級受信機とスレーブRTKによる姿勢角検出実証実験と制御系への適用」

マゼランシステムズジャパン株式会社 代表取締役 岸本信弘 氏

「みちびきとMarhy 3D Mapのコラボレーションによる自動運転の基礎的実証事業」

福島工業高等専門学校 ビジネスコミュニケーション学科 教授 芥川一則 氏

「農業分野における次世代ロボットの可能性について」

福島大学食農学類准教授 窪田陽介 氏

「災害・危機管理通報サービスのデジタルサイネージでの活用について」

JR東日本メディア株式会社 デジタルイノベーション部 開発戦略課担当課長 越良二 氏

「水道メーターの位置はどこ? 「みちびき」による位置情報整備とナビゲーション」

株式会社KIS 公共医療クラウド事業部 公共ソリューション部 課長 西村泰徳 氏

「次世代スポーツエンターテイメントをつくるG空間情報を用いた取り組み」

N-Sports tracking Lab合同会社 マーケティングマネージャー 田中仁子 氏

閉会挨拶

準天頂衛星システムサービス株式会社 代表取締役社長 石橋海 氏

実施報告⑦

■ 衛星測位シンポジウム2022

SDGs達成と地球温暖化影響緩和に貢献する衛星測位応用事例講演会

1. 開催概要

- ・ 日 時 : 2022年12月13日(火曜日) 講演14:00~17:00
- ・ 会 場 : 機械振興会館B2 多目的ホール及びオンライン
- ・ 主 催 : 一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構 (J-spacesystems)
高精度衛星測位サービス利用促進協議会 (QBIC)

2. 講演内容

開会挨拶が一般財団宇宙システム開発利用推進機構の三神泉 常務理事からあり、引き続き、衆議院議員 新藤 義孝 様から来賓挨拶(書面)を代読いたしました。以下、当日の講演タイトルと講演者です。

- (1) 準天頂衛星「みちびき」利用によるプレジャーボートの自動離着岸システム
(講演者: 山本 茂 ニュージャパンマリン九州(株) 取締役社長)
- (2) 準天頂衛星を活用した除雪車の自動化
(講演者: 中谷 了 東日本高速道路(株) 技術本部 シニアエキスパート)
- (3) GNSS技術と自然のしくみを活かす環境土木の開拓(日本人として)
(講演者: (株)コイシ 小原 文男 代表取締役、小原 隆弘 社外取締役)
- (4) 自律化が生み出す新しい土木工事の取り組みと温暖化対策への挑戦
～施工者目線における新たな戦略～
(講演者: 杉浦伸哉 (株)大林組 ビジネスイノベーション推進室 担当部長)。
- (5) 衛星測位を利用した沿岸と中山間地域の課題解決
(講演者: 内海康雄 舞鶴工業高等専門学校 校長)
- (6) スマート農業分野における環境対応
(講演者: 小林 伸行 (株)スマートリンク北海道 常務取締役)
- (7) 水産業を護る漁業者のための漁業者支援サービス「トリトンの矛」と
救難位置通報システム「アルテミス」
(講演者: 水上陽介 オーシャンソリューションテクノロジー(株) 代表取締役)
- (8) マルチモニタリングによる地盤やインフラの変動監視サービス
(講演者: 津野 浩一 国際航業(株) 先端技術・事業開発部 調査企画グループ 技術担当部長)
- (9) 異常気象による災害減災のための「みちびき海象ブイ」の事例紹介
(講演者: 伊藤 喜代志 (株)ブルーオーシャン研究所 代表取締役)

3. その他関連事項

- ・ J-spacesystems衛星測位シンポジウムのサイトでは、講演資料及び講演動画(YouTube)を公開しています。(同サイトのURL <https://qbic-gnss.org/post/4073>)

執筆: 上村 英央・一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構 衛星測位事業本部

実施報告⑧

■ G空間Expo2022「講演・シンポジウム」企画

「地理総合スタート！～G空間技術で楽しく学ぶ地理・地形・歴史～」

主催 地図みらいコンソーシアム

1. 開催趣旨

2019年に、39年ぶりの日本開催となったICC2019国際地図学会議に向けて産学官連携グループ「地図みらいコンソーシアム」が発足し、G空間EXPO2020に於いて「日本の地図過去・現在・未来」と題し、講演シンポジウムHP内にて様々なプログラムを発表し多くの方に視聴いただいた。

3回目となるG空間Expo2022でも引き続き複数のプログラムを公開した。

2. 公開プログラム概要

G空間Expo2021ホームページ上にて、以下のプログラムを公開

テーマ1 「地図や地理情報システムで捉える現代世界」

【地理総合】A 地図や地理情報システムで捉える現代世界

1-1「地理教材共有サイト」

1-2「授業で使える当館所蔵地図」

1-3 日本の歴史GISプラットフォームの構築 -Japanese Old Maps Online-

1-4 ゼンリンミュージアムの常設展示と、新たに存在が確認された伊能小図(實測輿地圖)の紹介

1-5 長久保赤水「赤水図」の新たな地理教育への活用

テーマ2 「命を守る防災教育と地理空間情報」

【地理総合】C 持続可能な地域づくりと私たち

2-1 オンライン講座:学区の地図を活用した災害リスクの理解

2-2 大分県の防災・減災に役立つ情報を発信!「おおいた減災スクラム」

2-3 位置情報×防災 位置情報データは防災を変えることができるか

テーマ3 「白熱地歴探究!地形で読み解く関東地方、首都圏の発展」

3-1 関東の地形形成ヒストリー

・列島誕生、第四紀、武蔵野台地の地形(縄文海進など)

3-2 古代史から中世へ 流域・道でとらえる関東の地誌

・古代律令制と「東国」風土記・板東武士の登場と「鎌倉殿」

3-3 戦国関東の「三国志」! 信玄VS北条氏VS謙信

・甲府盆地の形成・日本を代表する「扇状地」

・甲府盆地を流れる河川と水害・武田信玄の治水事業「信玄堤」

3-4 近世以降の都市発展ストーリー

・城下町・宿場町・八王子「桑都(そうと)物語」・文明開化

3-5 首都圏としての発展

・鉄道等と沿線都市・戦後の首都圏整備

・現代の首都圏のすがた(首都圏白書)

講演シンポジウムサイト終了後は以下HPにて継続して公開中

【地理教育フォーラム】<https://geoeducation.publishers.fm/article/25108/>

作成 地図みらいコンソーシアム事務局 上村 英央 (一般財団法人 宇宙システム開発利用推進機構)

実施報告⑨

■ 地理情報システム学会（自治体GIS分科会） 基礎自治体におけるベースレジトリと□□□

地理情報システム学会のG空間EXPO2023への参画は昨年同様自治体分科会が担当し、下記の通り「デジタルトランスフォーメーション」に軸足を向けた自治体の事例を紹介、パネルディスカッションを実施しました。

【概要】

最近、自治体の情報担当部署の組織名が「スマート」や「DX」を冠した名称に変化しているが、これは「アナログからデジタルへの転換」を超えた「デジタルを前提とした組織や仕組みの改変」をめざすという行政の意気込みの表れではないかと思われる。

そこで地理情報システム学会では、実際に組織名が新たになった自治体を招き、どのような情報化施策を進めているかという各自治体の取り組みについての講演（話題提供）と、デジタルトランスフォーメーション施策における課題について、パネルディスカッションを実施した。

（1）講演（話題提供）

- ・高松市都市整備局都市計画課デジタル社会基盤整備室長 伊賀 大介 氏
- ・加古川市企画部政策企画課スマートシティ推進担当課長 多田 功 氏

（2）パネルディスカッション（テーマ）

- ・変革の只中にある自治体情報化分野で、DX推進の基礎と定義されるベースレジストリ（人、法人、土地、建物、資格）の運用や利活用について、GISなどを用いて共有されていたデータのみならず、利用が限定されていたデータも上手に活用することでどのような効果が見込めるか
- ・デジタル空間にでの行政経営で求められる職員のスキルや、職員の意識変化について

司会：地理情報システム学会 自治体分科会 浅野 和仁

コメンテーター：地理情報システム学会 自治体分科会 青木 和人

【収録】

2022年10月30日 地理情報システム学会第31回学術研究発表大会 企画セッション「基礎自治体におけるベースレジトリとGIS」

【視聴数】

586回

6. (同時開催) イチBizアワード

主催：内閣官房 地理空間情報活用推進室

(同時開催) イチBizアワード

■ イチBizアワード概要

内閣官房地理空間情報活用推進室では、既存分野にとらわれない斬新なアイデア・スキルを持つ人材の発掘とアイデアの事業化を目指し、地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」を開催した。本コンテストは今年度が初めての開催であった。

会場では、応募総数390件の中から選ばれた優秀作品について、12月6日開催の表彰式にて表彰を行ったほか、12月6日・7日に優秀作品の展示を行った。

【表彰式】

開催期間 令和4年12月6日（火） 15:00～17:00

会場 東京都立産業貿易センター浜松町館 4階展示室メインステージ

【展示】

開催期間 令和4年12月6日（火）～7日（水）

会場 東京都立産業貿易センター浜松町館 4階第3会議室

有識者審査員 (五十音順、敬称略)

齊藤 香	Niantic グローバルコミュニケーションディレクター
齋藤 精一	パノラマティクス 主宰
柴崎 亮介	東京大学 空間情報科学研究センター教授
島田 総一郎	日本テレビ チーフプロデューサー
豊田 正史	東京大学 生産技術研究所教授

協賛企業 (五十音順)

朝日航洋株式会社、株式会社朝日新聞社、アジア航測株式会社
エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社、株式会社NTTデータ
岡谷エレクトロニクス株式会社、株式会社ゼンリン、トレーラーハウス
デベロップメント株式会社、株式会社パスコ、マップボックス・ジャパン
合同会社、株式会社マップル

(同時開催) イチBizアワード

イチBizアワード 2022年受賞作品 (敬称略)

最優秀賞	宇宙ビッグデータを活用した土地評価エンジン「天地人コンパス」	株式会社天地人 桜庭康人
地理空間情報活用部門賞	日本列島VR「JAPANELAND」	VoxelKei
独創性・新規性部門賞	文章のなかの地理空間 – 地理空間情報科学(GIS)と自然言語処理(NLP)の融合	地理空間情報と自然言語処理チーム (代表者: 大内 啓樹)
ビジネス部門賞	ドラレコの映像データから新たな価値を生み出すサービス	株式会社Nexar Japan 山本 幸裕
先進的技術部門賞	ヒトとロボットが行き交うセンサフロア	東京理科大学 中嶋 宇史
社会貢献部門賞	Civictechで海岸浸食にかかわる課題を解決する	株式会社ビーコン 廣田 諒

企業特別賞 (敬称略)

提案アイデア	提供企業名	
未来のカーナビ ~空飛ぶクルマの実用化に向けて~	芝浦工業大学附属中学高等学校 大槻 明日加 福山 優葉 政田 和奏	アジア航測株式会社 株式会社パスコ
宇宙ビッグデータを活用した土地評価エンジン「天地人コンパス」	株式会社天地人 桜庭 康人	朝日航洋株式会社
トークンエコノミーを基盤にした子育て特化のマップ型プラットフォーム	株式会社iiba 逢澤 奈菜	株式会社朝日新聞社 マップボックス・ジャパン合同会社
その場所でしか開けないデジタルタイムカプセル『KIOKU』	土戸 翔太 細谷 朋生 重本 玲奈	株式会社NTTデータ
メタバースを活用した空き家問題の解決	朝日航洋株式会社 平松 由冴 高田 直斗	岡谷エレクトロニクス株式会社
果樹園管理支援	朝日航洋株式会社 新井 千乃	株式会社ゼンリン

優秀賞 (敬称略)

ドローンによる山林のデジタル革命を進め国産材の生産性向上を実現し森林の荒廃を防ぐ	山陽商事株式会社 代表取締役 前田多恵子
ニアベジー	山後喬
バリアフリーをフル活用するサービス「バリアルート」	櫻田航大
ロメン (路面状況確認)	菅谷政克

(同時開催) イチBizアワード

表彰式の様子



主催者挨拶 (吉田 誠 室長代理)



来賓挨拶 (新藤 義孝 衆議院議員)



イチBizアワード説明



受賞者発表を行う有識者審査員



最優秀賞受賞 (株式会社天地人)



受賞者の皆さん

展示の様子



4階第3会議室 パネル展示の様子



4階第3会議室 パネル展示の様子

7. 広報

G空間EXPO運営協議会

広報（タイトルロゴ、キービジュアル）

■タイトルロゴ（再掲）



■キービジュアル（再掲）



広報（ポスター、フライヤー(チラシ)の制作、配布）

■ポスター、フライヤー(チラシ)の制作、配布

ロゴ(「G空間EXPO」)、キービジュアル、テーマ、期間・場所等を配したポスター及びフライヤー(チラシ)を制作、適宜配布を行った。

フライヤーは、表はポスターと共通、裏に、実地開催の場内各ゾーンの紹介、会場アクセスマップ、フロアマップを掲載した。

- ・ポスター
※A2判



- ・フライヤー
※A4判



広報（国土交通省における報道発表）

■ 国土交通省における報道発表

国土交通省においては、政策統括官及び国土地理院の連名により報道発表を行った（2回）。
〔配布先：国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会
及び筑波研究学園都市記者会〕

(1) 第1回 9月16日(金)14時

内容：①報道発表資料〔下図のとおり〕

②添付資料 ポスター（A4判に縮小）〔略〕



国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release



1. 国土交通記者会
2. 国土交通省建設専門紙記者会
3. 国土交通省交通運輸記者会
4. 筑波研究学園都市記者会
令和4年9月16日（金）14時同時配付

令和4年9月16日
政策統括官付
国土地理院

「G空間で創るデジタル社会」へ

～ G空間 EXPO2022 を12月に開催 ～

「G空間EXPO2022」を、12月6日～7日、東京・浜松町で開催します【入場無料】。
12月1日～25日は、動画コンテンツのオンライン配信も行います。
最新のG空間情報技術を、この機会にぜひご覧ください。

「G空間EXPO」は、G空間情報※の活用推進や普及啓発を目的として2010年から開催しており、今回で12回目となります。今年は「G空間で創るデジタル社会」をテーマに、産学官民により最新のG空間情報技術に関する展示・講演等を行います。

※G空間情報（地理空間情報）とは、地図・衛星測位等から得られる「いつ」「どこ」等の時間・位置の情報です。

- G空間EXPO2022～G空間で創るデジタル社会～ 開催概要
【会場開催】 令和4年12月6日(火)・7日(水) 東京都立産業貿易センター浜松町館
【オンライン開催】 令和4年12月1日(木)～25日(日) 公式サイト <https://www.g-expo.jp/>
- 主な内容（予定）
【会場】 ●基調講演 ※講演者は変更になることがあります。
中村 弘太郎 氏（デジタル庁デジタル社会共通機能グループ データノベース・レジストリ担当）
渡邊 英徳 氏（東京大学大学院 情報学環・学際情報学府教授）
古橋 大地 氏（青山学院大学 地球社会共生学部教授）
野波 健蔵 氏（千葉大学名誉教授、日本ドローンコンソーシアム会長、先端ロボティクス財団理事長）
●展示
最先端のG空間情報の技術や製品・サービス・情報等を紹介する『地理空間情報フォーラム』
先進的なG空間技術を発表する『Geoアクティビティコンテスト』
【オンライン】 展示、コンテスト、講演・シンポジウム等の動画コンテンツを配信。
- 同時開催
地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」発表・表彰（内閣官房主催）
<https://www.g-idea.go.jp/2022/>
- 添付資料「G空間EXPO2022」ポスター

(問合せ先)

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-2 政策統括官付（不動産・建設経済局情報活用推進課併任） 企画専門官 西藤 聡一郎（内線 29-833） 専門調査官 板倉 勝孝（内線 29-863） 土地・不動産情報係 草鹿 朋子（内線 29-834） TEL 03-5253-8111(代表) 03-5253-8353(直通) FAX 03-5253-1569	〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-2 国土地理院企画部地理空間情報企画室 室長 佐藤 壮紀（内線 59-421） TEL 03-5253-8139（直通） 室長補佐 津久井 ゆり子 TEL 029-864-6257（直通） FAX 029-864-1658
--	--

広報（国土交通省における報道発表）

(2) 第2回 11月7日(月)14時

内容：①報道発表資料

②添付資料

- ・「G空間EXPO2022」国土交通省関係イベントの概要
- ・チラシ
- ・取材申込書

①報道発表資料

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

1. 国土交通記者会
2. 国土交通省建設専門紙記者会
3. 国土交通省交通運輸記者会
4. 筑波研究学園都市記者会
令和4年11月7日(月)14時同時配付

令和4年11月7日
政策統括官
国土地理院

「G空間EXPO2022」を12月6日・7日に開催します！
～今年のテーマは「G空間で創るデジタル社会」へ～

東京・浜松町の会場では、G空間情報の最新動向について、産学官それぞれの立場から、基調講演、トークセッションで紹介するほか、最新の技術・製品・サービスなどの展示／プレゼンテーションを実施します。
12月1日～25日は、動画コンテンツのオンライン配信も行います。
最新のG空間情報技術をこの機会にぜひご覧ください。

「G空間EXPO」は、「G空間で創るデジタル社会」を今年のテーマとしてG空間情報[※]の活用推進や普及啓発を目的として2010年から開催しており、今回で12回目となります。
※G空間情報（地理空間情報）とは、地図・衛星測位等から得られる「いつ・どこ」等の時間・位置の情報です。

開催概要
名称：G空間EXPO2022～G空間で創るデジタル社会～ 主催：G空間EXPO運営協議会
【会場開催】令和4年12月6日(火)・7日(水) 10:00～17:00
東京都立産業貿易センター浜松町館 4階【東京都港区海岸1-7-1】
【オンライン開催】令和4年12月1日(木)～25日(日)
G空間EXPO公式サイト（URL下記参照）

オープニングセレモニー
日時：令和4年12月6日(火) 10:00～10:20
会場：G空間EXPO2022会場 メインステージ
出席者：国土交通副大臣（予定）、産・学・官の代表者
※取材・カメラ撮影可能です。取材を希望される方は、12月2日(金)17時までに「[取材申込書](#)」にてお申し込みください。

開催内容についての詳細は、G空間EXPO公式HPをご覧ください。 <https://www.g-expo.jp/>

同時開催（東京都立産業貿易センター浜松町館 4階 第3会議室）
地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」発表・表彰（内閣官房主催）
<https://www.g-idea.go.jp/2022/>

添付資料「G空間EXPO2022」国土交通省関係イベントの概要、チラシ、取材申込書

(問合せ先)
〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-2
政策統括官付（不動産・建設経済局情報活用推進課内）
企画専門官 西藤 聡一郎（内線 29-833）
専門調査官 板倉 勝孝（内線 29-863）
土地・不動産情報係 草鹿 朋子（内線 29-834）
TEL 03-5253-8111(代表) 03-5253-8353(直通)
FAX 03-5253-1569

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-2
国土地理院企画部地理空間情報企画室
室長 佐藤 社紀（内線 59-421）
TEL 03-5253-8139（直通）
室長補佐 津久井 ゆり子
TEL 029-864-6257（直通）
FAX 029-864-1658

※本イベントは、9月16日にも開催の発表を行っております。

広報（国土交通省における報道発表）

②添付資料

「G空間EXPO2022」における国土交通省主催のイベントの概要について

【添付資料】	【添付資料】
<p style="text-align: center;">「G空間 EXPO2022」における 国土交通省関係イベントの概要について</p> <p>「G空間 EXPO2022」は、令和4年12月6日（火）～7日（水）、東京都立産業貿易センター浜松町館で開催されます（オンライン開催：12月1日（木）～25日（日））。国土交通省（政策統括官付（不動産・建設経済局情報活用推進課併任）、国土地理院）は、以下のとおり各種イベントを実施します。全て無料でご覧いただけますが、感染症拡大防止のため、会場受付においてご連絡先等を伺いますので、ご理解とご協力をお願いします。</p> <p>1. 基調講演、トークセッション</p> <p>●基調講演（4階メインステージ） 12月6日（火）11:00～12:00 「デジタル社会における地理空間情報のポテンシャル～デジタル庁の取組を中心に～」 中村 弘太郎 氏（デジタル庁デジタル社会共通機能グループ テータ/ベース・レジストリ担当） 12月6日（火）13:00～13:50 「衛星測位を用いたドローン」 野波 健蔵 氏（千葉大学名誉教授、日本ドローンコンソーシアム会長、先端ロボティクス財団理事）</p> <p>●トークセッション（4階メインステージ） 12月7日（水）10:30～11:20 「地理空間情報アーカイブ・プラットフォーム最前線とコンテンツ開発の民主化」 渡邊 英徳 氏（東京大学大学院 情報学環・学際情報学府教授） 古橋 大地 氏（青山学院大学 地球社会共生学部教授）</p> <p>※講演テーマは変更になることがあります。</p> <p>2. Geo アクティビティコンテスト（主催：国土地理院）</p> <p>教育関係者・学生・民間企業等の皆さまが、G空間情報に関する先進的な取組、新たなサービスなどを展示とプレゼンテーションで紹介し、参加者と来場者が出会い、新たなアイデアが生まれる場を提供します。</p> <p>【展示】 日時：12月6日（火）～7日（水）10:00～17:00 会場：4階 Geo アクティビティコンテストゾーン 【プレゼンテーション（発表動画放映または口頭発表）】 日時：12月7日（水）11:30～ 会場：4階 メインステージ ※12月8日（木）からは、オンラインでもご覧いただけます。</p> <p>【表彰式】 日時：12月7日（水）16:00～ 会場：4階 メインステージ 【問合せ先】国土地理院企画部地理空間情報企画室 Tel：029-864-6257（直通）</p>	<p>3. 第14回地理院地図パートナーネットワーク会議（主催：国土地理院）</p> <p>国土地理院が提供するウェア地図「地理院地図」や「地理院タイル」について情報共有・意見交換を行うプログラムです。</p> <p>ペクトルタイムに関する最近の動向についての講演及び意見交換を行います。会議の様子はインターネットで全国にライブ配信します。その他、会議の詳細は、ウェブサイト（https://maps.gsi.go.jp/pn/）をご覧ください。</p> <p>【開催日時】12月6日（火） 11:00～15:00（休憩 12:00～13:00） 【会場】4階 第2会議室 【問合せ先】国土地理院地理空間情報部情報普及課 Tel：029-864-6643（直通）</p> <p>4. 地理空間情報フォーラム 国土交通省関連ブース</p> <p>「地理空間情報フォーラム」に、国土交通省から以下のおり出展します。 【会場】12月6日（火）～7日（水）10:00～17:00 【オンライン】12月1日（木）～25日（日）</p> <p>(1) ハリアフリー・ナビプロジェクトの取組</p> <p>誰もが移動しやすい社会の実現に向けた、ハリアフリー・ナビプロジェクトの以下取組を紹介。 ・歩行空間のデータ整備とオープンデータ化 ・ハリアフリー情報を活用した自動走行ロボット実証等 【会場】4階 地理空間情報フォーラムゾーン ブース4 【問合せ先】総合政策局総務課（総合交通体系） Tel：03-5253-8794（直通）</p> <p>(2) 国家座標とこれからの高精度測位社会</p> <p>高精度測位時代に不可欠な位置情報の共通基盤「国家座標」推進の取組を紹介。一等三角点標石（実物）や電子基準点（模型）など国土地理院「地図と測量の科学館」所蔵品を出展展示。 【体験コーナー】 ・三角点の重さを体験 ・西之島の地形をVR探索 ・3次元地図の整備に活用される3次元点群データのデモ体験 ・デジタル標高地形図（1/500,000）で日本列島を空中散歩 【会場】4階 地理空間情報フォーラムゾーン ブース11 【問合せ先】国土地理院企画部地理空間情報企画室 Tel：029-864-6257（直通）</p>

チラシ



基調講演 会場：4階メインステージにて

地理空間情報高度活用社会（G空間社会）の実現をより深化させるため、第4期地理空間情報活用推進基本計画（令和4年3月16日閣議決定）「G空間社会」の推進が図られた。地理空間情報を中心とした社会情勢の変化や国際的な動向を踏まえ、国産データとその活用から、地理空間情報に関する取り組みや基本計画に掲げる各種プロジェクトの現状、最新技術の活用事例などについてお話しいただきます。

<p>12月6日（火）11:00～12:00 デジタル社会における地理空間情報のポテンシャル～デジタル庁の取組を中心に～ 中村 弘太郎 氏 デジタル庁デジタル社会共通機能グループ データ/ベース・レジストリ担当</p>	<p>12月6日（火）13:00～13:50 衛星測位を用いたドローン 野波 健蔵 氏 千葉大学名誉教授、日本ドローンコンソーシアム会長、 先端ロボティクス財団理事</p>
<p>12月7日（水）10:30～11:20 トークセッション 地理空間情報アーカイブ・プラットフォーム最前線とコンテンツ開発の民主化 渡邊 英徳 氏 東京大学大学院 情報学環・学際情報学府教授</p>	<p>12月7日（水）11:30～ 古橋 大地 氏 青山学院大学 地球社会共生学部教授</p>

※講演テーマは変更になることがあります。

同時開催
12/6（火）

地理空間情報
フォーラム

最新のデジタル庁の取組を
触れよう！

企業・団体・機関等の関係者から、日本のG空間社会を支える最新の技術やサービス等を紹介し、G空間社会の発展に向けた取組や課題を共有し、G空間社会についてより深い理解を促す。G空間社会に関する取り組みや基本計画に掲げる各種プロジェクトの現状についてお話しします。G空間EXPOの開催プログラムも紹介。

同時開催
12/7（水）

Geo
アクティビティ
コンテスト

見に行こう！

教育関係者・学生・民間企業等の皆さまが、G空間情報に関する先進的な取組や新たなサービスなどを展示し、参加者と来場者が出会い、新たなアイデアが生まれる場を提供します。

同時開催
12/7（水）

講演
シンポジウム

キャッチしよう！

G空間社会の「イ」イノベーションにアクセスするための活用方法や、最新のG空間社会に関する動向や課題についてお話しします。今回はオンライン開催です。

同時開催 12/6（火）

地理空間情報活用推進基本計画
『イチBizアワード』

企業・団体・機関等の関係者から、日本のG空間社会を支える最新の技術やサービス等を紹介し、G空間社会の発展に向けた取組や課題を共有し、G空間社会に関する取り組みや基本計画に掲げる各種プロジェクトの現状についてお話しします。G空間EXPOの開催プログラムも紹介。

会場 東京都立産業貿易センター浜松町館4F
東京都立産業貿易センター浜松町館4F
〒105-8501 東京都港区浜松町4-1-1

オンライン 12/1（木）～25（日）
G空間EXPO 2022

※取材申込書：略

広報 (Webサイト)

■ Webサイト (URL= <http://www.g-expo.jp/>)

Geo spatial G空間EXPO 2022
地理空間情報科学で未来をつくる
G空間で創るデジタル社会

地理空間情報フォーラム
日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を企業・団体・機関による動画や画像などを通して紹介いたします。各団体等のさまざまな取り組みや技術をぜひご覧ください。

Geo アクティビティ エンテュスト
地理空間情報の利活用に関する先進的な取組やアイデアについて、展示等を実施。来場者や参加者との交流を通じて、優良事例の育成や普及、新しいサービスの創出などを目的としたイベントです。

講演 シンポジウム
G空間社会への理解を深めるための講演・シンポジウムから、G空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の紹介など、関係各団体によりさまざまなプログラムを実施します。

TOPICS

- 2022-09-05 地理空間情報フォーラム2022出展者募集中 **NEW!**
- 2022-06-20 Geoアクティビティコンテストの作品募集は終了しました。
- 2022-04-22 Geoアクティビティコンテスト作品募集開始。
- 2022-04-22 G空間EXPO2022開催計画等が決定しました。

同時開催 ビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」およびその関連「Inno vation」

アクセス
東京都産業貿易センター浜松町館
東京都港区海岸1-7-1
Tel:03-3434-4242

広報 (Webサイト)



アクセス

東京都立産業貿易センター浜松町館

東京都港区海岸1-7-1
Tel:03-3434-4242
(東京ポータルビル)

■新交通ゆりかもめ
■JR・東京モノレール
■都営地下鉄有明線
大門駅B2出



SMS

Tweets by @GeoExpo2022

GeoExpo2022
GeoExpo2022
GeoExpo2022
GeoExpo2022
GeoExpo2022

LINK

[JIS](#)

[GIS](#)

過去の開催

「G空間社会」のG空間





(閉会后表示)

Geo spatial **G空間EXPO** 地理空間情報科学で未来をつくる

地理空間情報フォーラム Geo アクティビティ エンテス 講演 シンポジウム

アクセス お問い合わせ



Geo spatial **G空間EXPO** 2022
地理空間情報科学で未来をつくる

G空間で創るデジタル社会

G空間EXPOとは

「G空間(情報)」は、将来が期待される重要科学分野の一つである「地理空間情報技術 (=Geospatial Technology) の頭文字のGを用いた、「地理空間(情報)」の愛称です。G空間EXPOは、地理空間情報高度活用社会(G空間社会)の実現へ向けて、産学官が連携し、地理空間情報と衛星測位の利活用を推進する場として開催されるイベントです。

オンライン開催は終了しました。

2022年12月1日(木)～25日(日)

会場開催は終了しました

2022年12月6日(火)・7日(水) 10:00～17:00
入場無料

会場 東京都立産業貿易センター浜松町館 4F (東京ポータルシティ竹芝オフィスタワー)

地理空間情報フォーラム

日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を企業・団体・機関による動画や画像などを通して紹介いたします。各団体等のさまざまな取り組みや技術をぜひご覧ください。

Geo アクティビティ エンテス

地理空間情報の利活用に関する先進的な取組やアイデアについて、展示等を実施。来場者や参加者との交流を通じて、優良事例の育成や普及、新しいサービスの創出などを目的としたイベントです。

講演 シンポジウム

G空間社会への理解を深めるための講演・シンポジウムから、G空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の紹介など、関係各団体によりさまざまなプログラムを実施します。

TOPICS

- 2022-12-25 **G空間EXPO2022オンライン開催は終了しました。** **NEW!!**
- 2022-12-8 12月6、7日にG空間EXPO2022 会場開催は終了しました。
- 2022-12-1 12月7日にトークセッションを開催します。
- 2022-12-1 12月6日に基調講演①、基調講演②を開催します。
- 2022-12-1 オンライン配信を開始いたしました。
- 2022-11-24 [G空間EXPOプログラム](#)を掲載いたしました。
- 2022-11-07 [12月6日、7日に開催します。](#)

71

広報 (Twitter)

■ G空間EXPO Twitter



**Geo spatial
G空間EXPO**

フォロー

G空間EXPO
@g_expo

「G空間EXPO」公式アカウントです。G空間EXPO2022は12月6日～7日に東京都立産業貿易センター浜松町館にて開催されました。また12月1日～25日に公式サイト
のオンライン会場でも開催されました。サイトの更新情報やG空間にまつわることをつ
ぶやきます。

g-expo.jp 2010年3月からTwitterを利用しています

43 フォロー中 1,316 フォロワー

ツイート ツイートと返信 メディア いいね

 **G空間EXPO**
@g_expo

G空間EXPO2022が開幕しました！
2日間開催しますので、東京都立産業貿易センター浜松町館4階へぜひお越しください！

g-expo.jp
[#G空間EXPO](https://twitter.com/g_expo)



午前11:30 · 2022年12月6日

13 件のリツイート 1 件の引用ツイート 24 件のいいね

🗨️ ↻️ ❤️ 📤

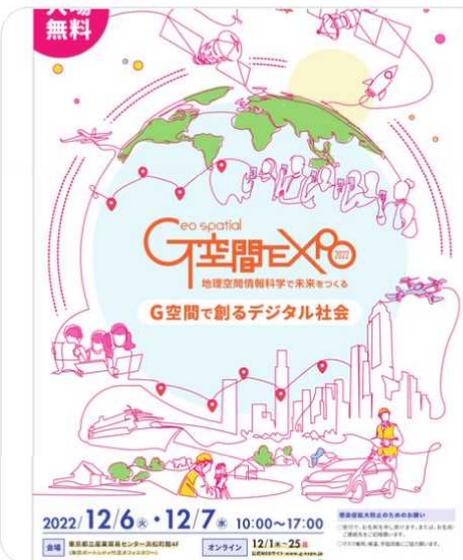
■ 国土交通省公式Twitter



国土交通省
@MLIT_JAPAN

【開催案内】「G空間で創るデジタル社会」をテーマに、産学官それぞれの立場から基調講演、トークセッションで紹介するほか、最新の技術・製品・サービスなどの展示/プレゼンテーションを実施。
12月6日～7日、「#G空間EXPO 2022」を開催。
(オンライン配信:12月1日～25日)

mlit.go.jp/report/press/t...



無料

Geo spatial
G空間EXPO
地理空間情報科学で未来をつくる
G空間で創るデジタル社会

2022/12/6*・12/7* 10:00～17:00
会場 東京国立産業技術センター浜松町館4F
オンライン 12/1*～25*
*12月6日(土)・7日(日)開催

地理空間情報高度活用社会(化空間社会)の実現をより深化させるため、第4期地理空間情報推進基本計画(令和4年度12月18日閣議決定)以下(基本計画)という)が策定されました。地理空間情報ももろくは社会情勢の変化や技術の進化や技術の進化も促進し、産学官それぞれの立場から、地理空間情報に関する取り組みや基本計画に掲げる各種プロジェクトへの関係、最新技術の利活用事例などについてお話しいただきます。

12月6日(土)11:00～12:00
デジタル社会における地理空間情報のデジタルシフト
～デジタル社会の発展を促すための～(基調)
中村 弘太郎 氏
デジタル庁 デジタル社会推進部 部長
デジタル・ヘルス・レジリエンス推進

12月6日(土)13:00～13:30
衛星測位を用いたドローン(仮題)
野波 健蔵 氏
国土交通省 航空局 航空機運用課 課長
国土交通省 航空局 航空機運用課 課長

12月7日(日)10:30～11:20
トピックセッション
地理空間情報アーカイブプラットフォーム
～プラットフォームの構築とコンテンツ開発の高度化(仮題)～

渡邊 英徳 氏
東京大学 教授
情報学 情報学専攻 教授

吉橋 大地 氏
岡山大学 教授
地理学 地理学専攻 教授

地理空間情報フォーラム
最新のトレンドを知る
触れよう!

Geo
アクセシビリティ
コンテスト
未来につながるアイデアを
見に行こう!

講演
シンポジウム
G空間社会の発展の最新動向
キャッチしよう!

同時開催
12/6-10
地理空間×ミライ
情報

『イチBizアワード』
国土交通省が主催する「地理空間情報活用促進コンテスト」の表彰式です。地理空間情報活用促進コンテストは、地理空間情報活用促進コンテストの表彰式です。地理空間情報活用促進コンテストの表彰式です。地理空間情報活用促進コンテストの表彰式です。

開催する会場
浜松町館

午後2:35 · 2022年11月7日 · Twitter Web App

4 件のリツイート 6 件のいいね

🗨️ ↺️ ❤️ ↗️

[参考] アンケート結果

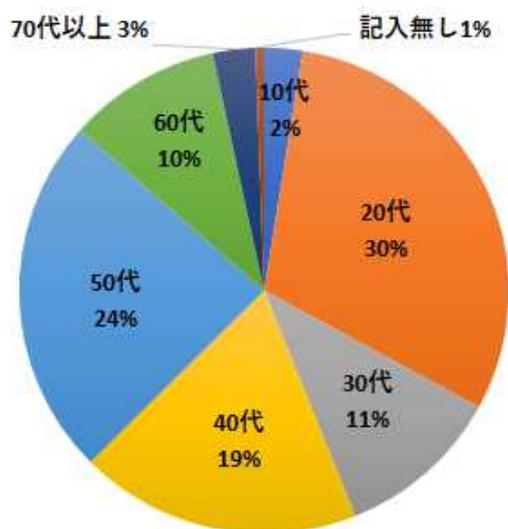
G空間 EXPO2022 アンケート結果

【会場】 12/6(火)・7(水)、会場にて書面により実施 [回答数：355]
 【オンライン】 12/1(木)～25(日)、オンライン開催サイト上に設置の回答フォームにより実施 [回答数：45]
 【質問項目】 1. 年代 (選択回答)
 2. 職業 (")
 3. 居住地 (")
 4. EXPO を何で知ったか (")
 5. 来場目的 (自由記述)
 6. 意見・感想 (")
 ※4.及び5.は、【会場】のみで実施した。

1.年代

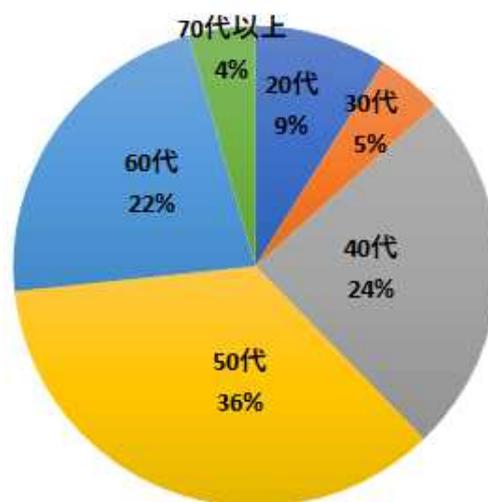
【会場】

年代	人数	割合
10代	9	2%
20代	108	34%
30代	39	11%
40代	66	16%
50代	85	22%
60代	36	11%
70代以上	10	3%
記入無し	2	1%
合計	355	



【オンライン】

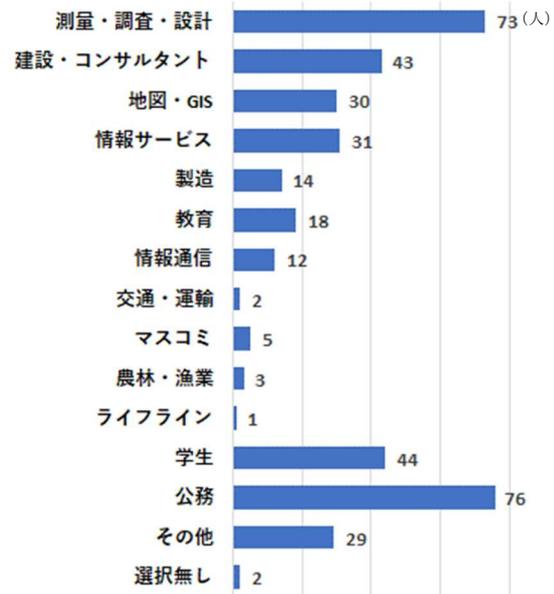
年齢	人数	割合
10代	0	0%
20代	4	9%
30代	2	5%
40代	11	24%
50代	16	36%
60代	10	22%
70代以上	2	4%
合計	45	



2.職業

【会場】

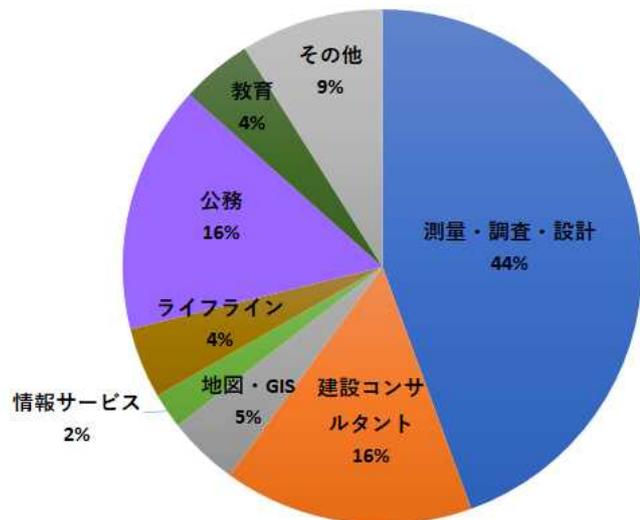
職業	人数	割合
測量・調査・設計	73	19%
建設・コンサルタント	43	11%
地図・GIS	30	8%
情報サービス	31	8%
製造	14	3%
教育	18	5%
情報通信	12	3%
交通・運輸	2	0.5%
マスコミ	5	1.0%
農林・漁業	3	1%
ライフライン	1	0%
学生	44	11%
公務	76	20%
その他	29	8%
選択無し	2	1%
合計	383	100%



* 上記「その他」で、記述のあったもの：「金融」(回答数 2) ,「コンサルタント」,「経営コンサルタント弁理士」,「サービス」,「無職」,「防虫」,「大学職員」,「行政」,「宇宙」,「登記」,「地理院 OB」(以上各 1)

【オンライン】

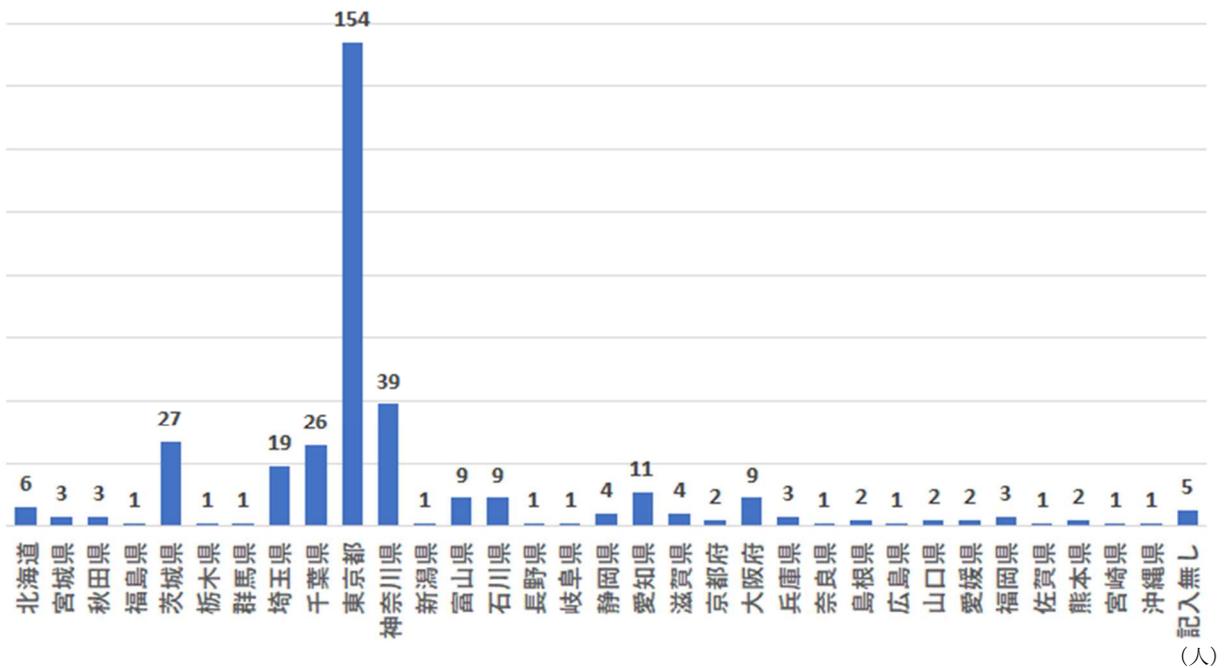
職業	人数	割合
測量・調査・設計	20	44%
建設コンサルタント	7	16%
地図・GIS	2	5%
製造 (情報通信機器)	0	0%
製造 (その他)	0	0%
情報サービス	1	2%
情報通信	0	0%
農業、林業、漁業、鉱業	0	0%
交通・運輸	0	0%
ライフライン	2	4%
公務	7	16%
教育	2	4%
マスコミ	0	0%
学生	0	0%
その他	4	9%
合計	45	



3. 居住地

【会場】

居住地	人数	割合	居住地	人数	割合	居住地	人数	割合
北海道	6	1.7%	福井県	0	0.0%	山口県	2	0.6%
青森県	0	0.0%	山梨県	0	0.0%	徳島県	0	0.0%
岩手県	0	0.0%	長野県	1	0.3%	香川県	0	0.0%
宮城県	3	0.9%	岐阜県	1	0.3%	愛媛県	2	0.6%
秋田県	3	0.9%	静岡県	4	1.1%	高知県	0	0.0%
山形県	0	0.0%	愛知県	11	3.1%	福岡県	3	0.9%
福島県	1	0.3%	三重県	0	0.0%	佐賀県	1	0.9%
茨城県	27	7.7%	滋賀県	4	1.0%	長崎県	0	0.0%
栃木県	1	0.3%	京都府	2	0.6%	熊本県	2	0.6%
群馬県	1	0.3%	大阪府	9	2.5%	大分県	0	0.0%
埼玉県	19	5.4%	兵庫県	3	0.9%	宮崎県	1	0.3%
千葉県	26	7.3%	奈良県	1	0.3%	鹿児島県	0	0.0%
東京都	154	43%	和歌山県	0	0.3%	沖縄県	1	0.3%
神奈川県	39	10%	鳥取県	0	0.0%	記入無し	5	1.4%
新潟県	1	0.3%	島根県	2	0.6%	合計	355	
富山県	9	2.5%	岡山県	0	0.0%			
石川県	9	2.5%	広島県	1	0.3%			



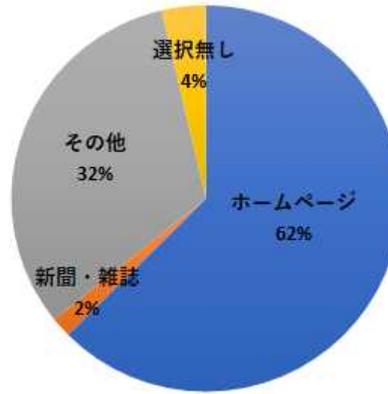
【オンライン】

居住地	人数	割合	居住地	人数	割合
北海道	0	0%	滋賀県	0	0%
青森県	0	0%	京都府	0	0%
岩手県	0	0%	大阪府	5	11%
宮城県	2	5%	兵庫県	4	9%
秋田県	0	0%	奈良県	1	2%
山形県	0	0%	和歌山県	0	0%
福島県	0	0%	鳥取県	0	0%
茨城県	4	9%	島根県	0	0%
栃木県	0	0%	岡山県	0	0%
群馬県	1	2%	広島県	0	0%
埼玉県	1	2%	山口県	0	0%
千葉県	2	5%	徳島県	0	0%
東京都	8	18%	香川県	0	0%
神奈川県	7	16%	愛媛県	0	0%
新潟県	1	2%	高知県	0	0%
富山県	0	0%	福岡県	2	4%
石川県	1	2%	佐賀県	0	0%
福井県	0	0%	長崎県	1	2%
山梨県	0	0%	熊本県	0	0%
長野県	1	2%	大分県	1	2%
岐阜県	1	2%	宮崎県	0	0%
静岡県	0	0%	鹿児島県	0	0%
愛知県	2	5%	沖縄県	0	0%
三重県	0	0%	海外	0	0%



4. 【会場のみ】G 空間 EXPO を何で知ったか

媒体	人数	割合
ホームページ	222	62%
新聞・雑誌	6	3%
その他	114	33%
選択無し	13	2%
合計	355	



(上記「その他」で、記述のあったもの)

その他	人数	その他	人数	その他	人数
職場	21	過去来たのでHPで調べた	1	関係会社	1
知人	4	中小機構さん	1	会議	1
高校の在学時、測量コンテスト出場	1	研修	1	OBからの連絡	1
メール	8	仕事	3	現場にて	1
学校	3	ポスター	2	参加者	1
DM	1	MIERUNE様の紹介	1	FashionGood展に来て	1
メールニュース（日測協）	1	国土地理院twitter	1	NEC様からのご紹介	1
大学教授に聞いて	2	知人	3	公務	1
人から	2	友人の誘い	1	仕事から	1
SNS	1	メール	1	JSIMAからの案内	1
国土交通省	1	大学からのお知らせ	1	ひみつ	1
紹介	10	国土地理院の方の紹介	1	JIPDEC坂下様より	1
上司のtwitter	1	知人の紹介	1	教授からの紹介	4
友人	1	可能な限り毎回来ている	1	研究室にて	1
知人の紹介	1	測量協会	2	先生	2
地図ネット	1	古橋先生の発信	2	学校	1
協会会員として	1	Mieruneさんの紹介	1	合計	111
twitter	6	イチBIZアワード参加	1		

5. 【会場のみ】来場目的

No	来場の目的は何ですか？	回答数
1	自身の教育、情報収集のため	1
2	測量技術のトレンドを知るため	1
3	様々な知識を得るため	1
4	今後の測量	1
5	ブース見学	1
6	地理空間情報に関わる動きの収集	1
7	アクティビティコンテスト	1
8	地理空間に興味あり	1
9	学習、study、勉強	8
10	最新情報確認	1
11	新しい技術の収集	1
12	地理空間情報に関する情報収集	1
13	就活にあたり、企業の情報収集をするためです。	1
14	就活のための企業研究	1
15	GFOINTに興味があった	1
16	見学	4
17	情報収集 ごあいさつ 営業活動	1
18	自己研鑽	1
19	最新技術の視察	1
20	測量などに興味があった。ドローン・三角点	1
21	最新の情報収集	1
22	JAXSAと国土地理院	1
23	展示・講演聴講	1
24	情報収集	51
25	イチBIZアワード 表授賞式	1
26	地理空間情報について、理解を深めるため	1
27	地理空間情報の利活用事例の収集	1
28	測量・地図情報に関する企業への就活を考えているため、情報収集	1
29	知人のブース見学、業界を知るため	1
30	最新の地図まわりの動向調査	1
31	最先端の地理関係の技術を見るため	1
32	最新の情報を得るため 業務に活用できるものを探するため	1
33	ビジネスの参考	1
34	地理空間産業のトレンド情報収集	1
35	G空間全盤の情報	1
36	G空間を深く理解したい	1
37	GISの最新の動向調査	1
38	GISの現在を知りたかった	1
39	ビジネスに生かすための学習	1
40	先端技術の学習	1
41	最新の動向チェック	1
42	最新のGIS情報の入手	1
43	地理空間情報について理解を深めるため	1

44	情報収集(3DX)	1
45	測量の先端技術を見に来ました	1
46	3年振りなので最新情報技術の収集	1
47	トークセッションの聴取	1
48	ブースを出しているため	1
49	GISデータに関する情報収集 測量機器やセンサーに関する情報収集	1
50	企業展示を見るため	1
51	新技術や新しい方式	1
52	市場動向をつかむため	1
53	GISソフトの研究	1
54	興味があった	1
55	市場調査、課題解決	1
56	MeCam※ フォーラム聴講	1
57	農業関係の応用の調査	1
58	新しい技能の収集	1
59	G空間の新しい動きを知る	1
60	最新の地理空間情報の活用について興味があった。	1
61	GISを担当しているため情報収集	1
62	関連会議の帰り（最新測量技術に興味有）	1
63	地理空間情報技術のアップデートのため	1
64	GISに関する情報、最新動向を学ぶため	1
65	展示の閲覧、GISについて学びたかった為	1
66	GIS動向調査	1
67	最新の測量技術の理解のため	1
68	地理データに関する仕事に携わっていたため	1
69	3D地図利用のアイデア探し	1
70	様々な企業の技術を知りたかったため	1
71	MAPBOXさんの展示	1
72	地図の活用と資源	1
73	デジタルマップの最新情報を学ぶため	1
74	3D地図の活用について情報収集	1
75	地図の活用	1
76	参考になりました。	1
77	VRの避難シュミレーションを見てみたかった	1
78	3次元測量に関する情報収集 測量協会の図書の購入（10%引き）	1
79	打ち合せ 挨拶	1
80	最近のG空間の取組みの勉強	1
81	地図システム利用	1
82	最新技術の動向	1
83	地理空間データの最新動向を知るため	1
84	現在の地図情報に関する技術調査	1
85	トークセッション	1
86	トークセッションの参加 展示の閲覧のため	1

87	行政データの活用事例	1
88	新しい動向について勉強する	1
89	地理空間データ、測量等サービスの動向調査	1
90	研究テーマの参考のため	1
91	各社の動向や関連団体の現状の見識を広げるため。また、様々な※活用事例を知るため。	1
92	業界動向	1
93	GIS動向の把握、現状調査	1
94	先端技術動向の入手	1
95	技術・サービスの情報収集	1
96	修士論文のテーマのヒントを得るため	1
97	地理に興味があるので	1
98	GISデータ活用事例の情報収集	1
99	災害に活用出来るものを探しに	1
100	フォーラム見学	1
101	情報収集・交換	1
102	地理教育関係の情報交換	1
103	技術・サービス情報の収集	1
104	最新技術の情報収集	1
105	最新の衛星技術・測位・測量システムを知るため	1
106	3D都市モデル以外の展示の見学	1
107	技術等情報収集	1
108	視察	1
109	Geoアクティビティコンテスト	1
110	アイデア収集	1
111	空間情報技術についてさらに知識を深めるため	1
112	空間情報技術の社会への活かされ方を学ぶため	1
113	空間情報に興味があった	1
114	GISについての知識を深める	1
115	ソクジョ会のイベント、トークに参加したかった。たくさんの若手～ベテランの業界女性と会えてよかったです。	1
116	技術の見聞を広めるため	1
117	研究のため	1
118	地方への展開可能性をリサーチ	1
119	地理情報に関する最近の技術調査	1
120	CPDポイント	1
121	ゼミ生の見学	1
122	ゼミ生の連れ	1
123	ゼミ生の発表参加	1
124	ゼミの研究分野と重なっているので、その技術などをみるため	1
125	QGIS	1
126	ソクジョの会のソクジョソーク参加	1
127	他企業の取り組みを勉強するため。	1
128	地理空間情報、UR/ARなどの観光への利活用、アーカイブ、教育について知りたかつ	1

6. 意見・感想

【会場】

No	ご意見・ご感想をお聞かせください。
1	地図会社の出展
2	各ブース、動画があると良いですね。
3	ソフトの使い方のワークショップみたいな、参加型イベント
4	色々な情報が知れてよかった
5	学校教育へのいろいろな取組がみれてよかった
6	大学生、高校生のGIS関連の取り組みを知りたい
7	発表のPDF等をダウンロードできるようにしてほしい
8	技術セミナー
9	ベンダーフォーラムはわかりやすく解説いただいたので理解が深まりました eVTOLは今後益々発展すると思いますので引き続き取り扱って欲しいと思います。
10	多くの企業からのお話を聞いて良かったです。 荷物を整理するための机がほしいです。
11	企業の方にたくさん資料をいただくので、それを整理できる机がほしいです。
12	アクティビティコンテストがおもしろい
13	今回は会場が交通便利でありがたかった
14	地上測量
15	GIS関連
16	JAXAだいち3号、4号 H20ロケットでの成功お祈りしています。
17	地図関係なら何でも
18	非常にていねいに教えていただきました。
19	前回よりも学生が増えていて良かったです。
20	時代に沿った新しい物を発表して欲しい
21	ワークショップ
22	ESTATよかった。
23	G空間関連で、街づくりの事例を紹介してほしいです。
24	展示室が良かった
25	素敵な機会をありがとうございます。生徒の引率でした。 グループで出場していたので代表者だけが悲しかったようです。
26	秋山調査設計の秋山氏のお話しがとても感心しました。次回もぜひ参加出展していただきたいと感じました。
27	平日は学生にきびしいです。 見て楽しかったです。
28	初めて来たので、いろいろ見てみたい
29	QGISの機能講座
30	限られたブースの中で、丁寧に説明をしてくださり、最先端を知れてよかった。イチBIZアワードも、どれも興味深く面白かった。

31	Plateauやデジタルツインに特化したイベント オンラインでもオフラインでも続けてほしく思います。 Webエンジニアとして盛り上げたい。
32	イベント自体の告知をもっとやって欲しい データ活用についての製品を増やして欲しい
33	新しい情報 情報が収集できた
34	ソフトウェアの展示が多い一方、機器等ハードウェアの展示が極端に少ないと感じました。
35	Arc-GISやQGISのかんたんな使い方等
36	HPの情報開示をもう少し早くして欲しかったです。 (講演の予定が直前まで分かりませんでした)
37	貴重な体験になりました。 ありがとうございました。
38	直接説明を聞くことができてよかった
39	とてもためになりました。各社、とてもいろいろ開発していて、これからの日本にプラスになりますよう、がんばっていただきたいです
40	ちょうど良いキボで目的がまとまっている
41	週末前にしてほしい
42	3D都市モデル(プラト)の活用について。ユースケースなどを紹介してほしいです。
43	もうちょっと説明する人がたくさんいるといい
44	継続的な開催と、過去との比較、技術進歩の歴史・経緯がわかると良い
45	もう少し参加業者や行政を
46	現在の最新の取り組みにつながっている過去の取り組み、未来への理想など連続する発表が聞きたい。後はいに伝える時歴史の話も必要と考える
47	FOSS4Gとの共催。GIS等に関するハンズオン。
48	高精度測位利用に関するイベント
49	同業者向け、マニアックな内容が多いので、一般的な展示も増やして欲しい
50	ビッグデータやデータの共通化に関するイベント
51	普段聞けない会社等の話がきけてよかった
52	PLATOに特化したイベント
53	できる限り講演会も会場でやってほしい
54	民間（企業・団体）や、学術分野の方々の現在の取組を伝えることは今後も続けてほしい
55	デジタルツイン特化型イベント
56	規模が大きくて非常によい。休日開催だとありがたい
57	継続してG空間EXPOを実施してほしい。
58	Digital×地理空間に特化したイベント、スマートシティへの活用など
59	参考になりました。
60	新技術を紹介してほしい
61	「測量の日」以外にも、一般向けの地図・GIS関連のイベントがあるとよいと感じた
62	たくさんコンペの機会があるとうれしいです。

63	3D都市モデルやWebGISについてもっと詳しく知りたい
64	3Dキャプチャ+精密な測位 インドア～アウトドアのシームレスな3次元データ
65	ドローン紹介
66	新しい技術の普及に努めてほしい
67	けいたいひとつで地図が作れるのがすごい
68	多様な地図表現を見られ刺激になりました。
69	サテライト通信の将来
70	来年も期待してます
71	トークセッション
72	とても勉強になりました
73	オフライン開催ありがとうございます
74	ゲーム会社等、架空の世界でマップを作るような見識も取り入れてみるのも手かもしれないと思った。
75	展示場内に休けいスペースが欲しいです
76	学生向けの研究発表イベント
77	地理×女子のメタ巡検が特に良かった！
78	さんぽ企画
79	いちBIZのとりくみに関心を持った
80	会場が都心部なので来場しやすい。Web対応があり良いと思う。 教育へのアプローチが多く、将来への貢献になる。
81	大変勉強になりました
82	気象データを用いた企業の集まるイベント
83	3D都市モデルに関するイベントを行ってほしい
84	体験型のイベントが増えるともっと面白いと思いました
85	以前のように、もっとたくさんの機器展示があってもよかったかなと思いました。
86	どのブースもわかりやすく説明してくれて助かった。
87	とても面白かった
88	ブースが多く楽しかったです
89	地方開催もご検討下さい
90	ゴルフウォッチが欲しい
91	資料だけでなく実際に技術を体験できるといいなと思いました。
92	自分たちが使用しているものとスケールがちがった。 実際につくる過程をみてみたい。
93	今後の同様なG空間イベント
94	来年度より授業（観光まちづくり演習/國學院大學）が始まるのですが、授業設計に非常に参考になりました。また、GIS,SLAM,XRの最新情報を知れて刺激になりました。来年も来ます。

【オンライン】

No	ご意見・ご感想
1	オンライン分として送付しておきます。
2	我々測量業者が作成する地形図ではなく、広く国民が知りたい空間情報の提供をされている各社の取組を多く知ることができ、非常に楽しく拝聴しております。
3	オンライン開催のコンテンツへのリンクが判らない。そのため閲覧せずに離脱する。単なるデザインなのか、リンク機能のあるボタンなのか、区別がつかないデザインが不愉快。
4	土日祝にオンラインでみれるようにしてほしい。
5	東京湾での実装実験の進捗状況がよくわかりました。
6	新しい測量の世界を知る機会になります。ありがとうございます。
7	デジタル庁が目指しているもの、現時点できていること、ドローンの将来性等が分かり、10年後どのように、便利な社会になっているのか、それぞれの分野の方たちの取組み方、また、国民の関心具合、世界の景気等にも影響を受けながら、暮らしやすい社会を目指していることが分かり、良かったです。
8	各企業の取り組みを知れたので良かったが、もう少し各取り組みについて知りたいとも思った。
9	みちびき（準天頂衛星システム）に関する様々な情報に接することができました。ありがとうございました。特に、トリアスロンにみちびきを活用できるような受信機の開発には非常に興味深く拝聴させていただきました。受信機が小型化し利用しやすくなれば、様々な新しいニーズが生まれると思います。
10	今年度も楽しくオンラインで視聴させていただきました。
11	オンライン開催併用のシンポジウムは、予定が合わせやすいので来年も同様の開催をお願いします。
12	基調講演をWEB視聴しようと思ったが、リンクの場所が中々みつからなかった。「オンライン会場はこちらから」からはたどり着けなかったし、「講演・シンポジウム」には基調講演の項目が無い。結局、トップページを下にスクロールしてリンクが貼られているのに気が付いた。また、基調講演の動画も冒頭数10分は静止画・無音状態になっていて講演が始まらない。無駄な部分をカットして公開した方が印象が良いと思う。
13	オンライン開催を行って頂き、感謝いたします。コロナ禍で最新技術を学べない状況ですが、地方にいても参加できるので、助かります。
14	実地開催の会場は盛況で、広さとしては適当であったと感じました。Webとの併用は、参加する方はありがたいですが、出展側は労力が大きいのではないのでしょうか。
15	みちびきが主要なテーマになっています。非常に便利で高精度のツールで利用価値が高いと思います。しかし、基本的な考え方の温度補正の原因と補正が必要な理由について理解しないままユーザが存在することに基本測量の経験者として危惧を抱いています。
16	コロナ禍により開催規模が縮小され、とても残念に思う。来年度はコロナ前の規模とは思わないが、実際の講演やリアル展示による開催が行われることを期待しています。
17	皆様の運営に感謝します。みやすい画面構成と、直観的な検索、CPD登録の簡易性を常に願います。ありがとうございます。
18	エネルギー道路（太陽光舗装）、地下防空道路、完全床暖房、冷房道路、シールドガラス屋根道路、LED完全照明道路、配水施設地下化道路、空中通路ネットワーク全国でやりませんか。
19	オンラインでの講習はコロナ禍および働き方改革に有効であり、次回もオンラインでの開催を望みます。
20	オンラインで参加させていただきました。機会があれば現地で聞いてみたかったです。

21	<p>本年度のG空間EXpo2022においても、対面・Webのハイブリット方式の開催であった、12月6日の初日に会場にて各ブースを拝観させていただいたが、想像以上に来場者であり以前に戻りつつあることを実感できた。業界関係者の知り合いの方々と久々の再開ができたことがとても良かった。今後、今までどおりに近い人的交流が早期に戻ることを願っています。開催に関しご尽力いただき、感謝申し上げます。</p>
22	<p>CPDに対応するオンライン動画を閲覧しようと思いましたが、一部のコンテンツしか閲覧出来ませんでした。40分間分の動画がありません。12/25迄提出可能と聞いていましたが、既に終わってしまったのでしょうか？ CPD成果が提出出来ません。</p>
23	<p>取得できるCPDポイントが実地1、オンライン1というのは少ないと思いました。オンライン開催で100文字の意見・感想を書くとなると、真剣に視聴あるいは複数回視聴するので、集合開催で1回聞き流すよりは身になっていると思うので、取得できるポイントが増えるとありがたいです。</p>
24	<p>ありがとうございました。</p>
25	<p>久しぶりに対面で参加したが、色々な展示があって良かった。以前の様に、海保の測量船に乗れると良い。また、体験型のイベントがもう少し多いと良いと思った。シンポジウムはオンラインが主だったが、ハイブリッドで開催するか、全面オンラインならオンデマンドでも聴講できるようにしてもらえると良い。</p>

(以上)

[参考] 開催実績

開催実績

	名称	会期	会場	来場数等
1	G空間EXPO	2010(H22) 9/19日～21火	パシフィコ横浜 [使用面積10,000㎡]	36,819人
2	G空間EXPO2012	2012(H24) 6/21木～23土	パシフィコ横浜 [6,700㎡]	18,143人
3	G空間EXPO2013	2013(H25) 11/14木～16土	日本科学未来館(東京都江東区) [使用面積約2,000㎡] ※1	17,584人
4	G空間EXPO2014	2014(H26) 11/13木～15土	日本科学未来館	20,311人
5	G空間EXPO2015	2015(H27) 11/26木～28土	日本科学未来館	18,856人
6	G空間EXPO2016	2016(H28) 11/24木～26土	日本科学未来館	19,138人
	G空間EXPO2016in仙台	" 10/5水	仙台国際センター(仙台市青葉区)	128人
	G空間EXPO 2016in大阪	" 10/24月～25火	ATCホール(大阪市住之江区)	150人
7	G空間EXPO2017	2017(H29) 10/12木～14土	日本科学未来館	20,450人
	北陸G空間フォーラムin新潟	" 9/20水	朱鷺メッセ(新潟市中央区)	94人
	九州G空間フォーラムin鹿児島	" 11/8水～9木	かごしま県民交流センター(鹿児島市)	205人
8	G空間EXPO2018	2018(H30) 11/15木～17土	日本科学未来館	10,623人 ※2
	北海道G空間フォーラムin札幌	" 7/18水～22土	かでの2・7ほか(札幌市)	836人
	中国G空間フォーラムin広島	" 9/13木～14金	JMSアステールプラザ(広島市)	350人
9	G空間EXPO2019	2019(R元) 11/28木～30土	日本科学未来館	15,513人
	中部地理空間フォーラムin岐阜	" 10/11金 ※3	ぎふメディアコスモスほか(岐阜市)	143人
	四国地理空間フォーラムin松山	" 11/8金～9土	松山市総合コミュニティセンター(松山市)	175人
10	G空間EXPO2020	オンライン開催 ※4 2020(R2)11/24火～12/27日	—	(アクセス数) 58,306
11	G空間EXPO2021	実地開催 2021(R3) 12/7火～8水	東京都立産業貿易センター浜松町館 (東京都港区) [使用面積約1,534㎡]	(来場数) 1,022人
		オンライン開催 2021(R3) 12/1水～26日	—	(アクセス数) 51,330
12	G空間EXPO2022	実地開催 2022(R4) 12/6火～7水	東京都立産業貿易センター浜松町館	(来場数) 1,424人
		オンライン開催 2022(R4) 12/1木～25日	—	(アクセス数) 45,493

※1 日本科学未来館における使用面積はこの翌年以降も同じ。

※2 来場者数カウント方法をこの年から精緻化した。

※3 台風接近のため、予定されていた第2日(10/12 土)の開催を中止した。

※4 感染症拡大防止の観点から実地開催を中止しオンラインにより実施。翌年度(2021)は実地、オンラインの併用で開催した。

G空間EXPO2022開催報告書

令和5年3月17日

G空間EXPO運営協議会事務局

